

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第36号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報部会 第77回生（昭和46年入学）

新しきを訪ねて古きを想う—清陵は今

清水ヶ丘の学窓を勇躍巣立ってはや30有余年、我々77回生が和顔集って本年度の同窓会当番幹事となり、さて、この会報を学兄姉諸氏にお届けするにあたって心をくだいたものは「清陵の今」を伝えようということ。ほぼ1カ年にわたる活動を中心に、このテーマをどしりとすえて、同窓会員の皆々様に少しでも現在の諏訪清陵高校の息づかいをつたえられればまさに本望というものであります。為に会務報告、学校だより等を除いて、77回生が取材可能なものは、現役諸君を支援し、あたたかく見守るという立場を堅持して、時間の許せる範囲で現場から汲みとった知見をここに活字としてお伝えするものです。

ここにその概容を示せば、各クラブ活動についてはそれぞれの出身者が担当となり、担当教諭の許可を得て取材を敢行。現役諸君と対話をしたり、今昔の相違を眺めたりして、その感懐を収めてあります。更に現在の諏訪圏に生じている教育環境課題をはじめとして、母校の教育改革に関わる動静をも含めて松下勲同窓会長（59回）に直接の取材の中でお伺いをし、同窓会員等しく今後の動向を注目すべき点を強調しておきたいと存じます。学校内に関しては篠原秀郷学校長と教員として在清陵20年選手となられた

小池忠男教諭（73回・体研）に、同窓会に望むことや現役諸君の現代気質等々について尋ねてみました。「自反」の精神が今の生徒諸君にどのように姿・形を変えて伝えられているか、興味ある事柄であるといえるでしょう。

閑話休題。77回生の活動のテーマを「清陵は今」と題して現在の心の姿をまず知ることから始めようとした以上、恒例の定期総会後の講演会、あるいはシンポジウムをどうするかという点に悩みました。同期生一同所説を吐露するうち、たまたま武居美博君（77回・現清陵高校教諭）が「第二校歌講義」と題する小冊子を作成し、現役に教えている事実を知り、仲間一同その労作を手に入れて一読するうち開口一番、全員がこれを何とか生かそうと衆議一決、座談会風に「みんなで語ろう第二校歌」という趣旨

で、総会の後に諸先輩と語り合う場を設けることとしました。

前段は「学友会」草創期と「自反」精神の萌芽について語り合ってまいりたいと考えております。諏中・清陵は何故「校友会」や「生徒会」でなく「学友会」なのか、「孟子」に典拠する「自反」精神はいつ頃どのように学友会の自治精神の柱として確立するようになったのか。諸先輩の知見を是非お聞かせいただきたいものです。

中・後段は武居君の小冊子から武居君自身による解説を予定しております。時間の都合で彼自身がポイントを絞った部分を中心に進めてまいります。これも同様に諸先輩のご意見をいただきながら、濃密で有意義なひとときを醸成してみたいと願っております。



中島喜久平（4回）最晩年の揮毫「高踏」

絶筆とも伝えられ、看病に尽された妹のむめよに贈られた品とも（中島伸和氏談）

平成22年度 定期総会のご案内

日時 平成22年6月26日（土）午後1時30分より

場所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」

- 議事
- ①平成21年度会務・会計報告
 - ②平成22年度事業計画・予算案審議
 - ③役員改選
 - ④その他

シンポジウム（午後3時より）

テーマ みんなで語ろう第二校歌

第1部 第二校歌誕生の背景を探る

第2部 第二校歌歌詞解釈

懇親会（午後5時より）会費 5,000円（当日受付にて）

※本年度は前売チケットの販売は致しません。多くの方のご参加をお待ちしております。
（お問い合わせは事務局まで TEL 0266 - 58 - 0356（月・金出勤））

諏訪清陵高校同窓会会長・松下勲（当番幹事77回生、次年度当番幹事78回生、サブ幹事学年87回生・97回生）

バスケットボール部

ボールは意志どおりリングを通ったか



夕暮れの第一体育館で、箒球部員としてすり切れたバスケットボールを追いかけていたことがつい昨日のようだが、信じがたいことにそれはもう35年

ほど前のことである。体育館は、水銀灯には照らされていても薄暗く、何箇所かでボールが弾まない。当時としても前近代的な空間であったが、それがいかにも我々の意識する『清陵』像とマッチしてなんとも心地良かった。また『清陵』の漢字が剥がれかけて、すり切れたしかも何色か形容しがたいユニフォームにも誇りを持った。それこそが、諏訪中学・諏訪清陵高校箒球部の諸先輩達が汗をすり込ませて戦った歴戦の置き土産だと胸に染み入った。

清陵箒球部は今から約80年前(昭和3年=1928年)に産声を上げた。だがその誕生は大正末期に起こった『学友会』での選手制廃止論等々の空気の中でかなりの難産だったようだ。いわゆる勝利至上主義否定とクラブ活動一般化、だが、「対外試合には勝利したい」という矛盾との葛藤であった。対外試合禁止期間中に「県外試合に出場したい」という強い思いを持った昭和初期の大先輩たちの中には、学校名を偽って県外大会を勝ち進んだ猛者もいたと聞く。その後、太平洋戦争を挟んで紆余曲折があったが、箒球部の快進撃は続く。中部日本大会における幾多の優勝、そして昭和24年、OBと現役の混成チーム『清陵クラブ』でのオールジャパン・ベスト8は、現在では想像も出来ない快挙であった。

創部後20数年の歳月を経て、清陵(諏訪中学)OBの矢嶋壽雄教諭(48回・通称トッサ)が昭和27年に着任され箒球部顧問となられた。トッサは上記快挙のキャプテンであった。

清陵という学府の特殊性を十分に理解されたトッサは、少人数部員・限られた練習時間ゆえの悩みを抱えつつ、『短時間集中型』『効率的な反復練習』等々でそれらを克服し、『1点差でも勝利する』という極めて明快な方針に、我々部員の士気が高揚しないはずはなかった。また、毎年変わる部員の技量・個性を見極めて戦術を練られており、画一的でない作戦がなんとも痛快であった。何よりも特徴的な指導方法は、我々に全てを『教え込む』のではなく、我々が『自身で考えて行動する』方向へと導いて頂いたことである。トッサの30数年間の箒球部顧問としての戦績は、長野県制覇・4回(含む新人戦)、インターハイ出場こそ2回のみであったが、常に長野県の上位を確保し、『南信に清陵有り』は現在でも脈々と受け継がれている。我々が『たかがバスケットボール』を通して享受したのは、単なるスポーツから飛躍し、実はトッサの持つ『人生

哲学』であり『人間の生き方』そのものであった。

私自身は今から35年ほど前に部員数10人以下で毎日ボールを追ひ掛け回したが、それは実は自己との戦いの毎日であった。激しい練習は我々を『南信6連覇』に導いてくれたが、無念にも長野県制覇には一歩及ばなかった。だが戦績以上に財産として今も我々の心中深く残るものがある。それは『勝っておごらず、敗れた悔しさにも言い訳をせず、明日に闘志を燃やす誇り高さを持つ』という根本精神である。果たして清陵を卒業し35年も経過した今日でもその薫陶は小生の指針となっている。またトッサに鍛えられた箒球部員ならば少なからず共通の思いを抱いているものと確信する。それこそが、わが諏訪清陵箒球部の部風そのものであった。

トッサの勇退後、15年以上清陵OB以外の教員の指導に託すことになるが、それを清陵OBとしてアシスタント・コーチの立場で2008年まで箒球部を全面的に支え、部風・伝統を継承し続けたのが、昭和41年(1966年)長野県制覇・インターハイ出場時の主力選手であった鎌倉宗一氏(70回生)である。そして、2000年には、顧問として箒球部OBの藤森政明教諭(76回生)が着任され、現在の清陵男子バスケットボール部の新たな時代を切り開いている。その指導の特異性は、生徒の主体性を尊重し、練習内容・戦法を生徒が自ら提案し、教諭が生徒と議論しながら方法を決定していく環境を作りあげたことにあり、他校とは一線を画している。それはそのまま対外試合の戦績にも反映されている。ここで、特に最近5年間の対外試合の戦績を下に記す。

さて、わが清陵箒球部は創部以来80年を経た。この間、たびたびの校舎新築に伴い、我々の鍛錬の道場である体育館もその姿を変えてきた。上述した如く我々の時代の『すえた臭いに包まれた薄暗い清陵体育館』は、幾多の先輩の汗と(涙)も染み込んでおり、我々にとってはまさに殿堂であった。そしてそれぞれの体育館はこの80年に約500名の部員を過去に輩出してきたのである。時代の変遷は、清陵生の変遷でもあり、現代の清陵生を過去の諸先輩方や我々の時代と単純比較するのは愚行であるが根本精神は大同小異と信じたい。

ここに、本会報の主旨である『清陵は今…』に照らし現役箒球部員にその思いを語ってもらったので、出来る限り彼らの言葉に添ってお知らせしたい。

ちなみに現役部員は、2年生4人、1年生11人 女子マネージャー2人である。

バスケットボール部 最近5年間の戦績

	高体連(インターハイ予選)	新人戦
2005年度	南信2位/県1回戦敗退	南信2位/県ベスト8
2006年度	南信3位/県ベスト8	南信6位/県1回戦敗退
2007年度	南信2回戦敗退	南信3位/県ベスト8
2008年度	南信3位/県ベスト8	南信2位/県ベスト8
2009年度	南信2位/県ベスト8	南信2回戦敗退

1. 諏訪清陵高校に関して

(1) 清陵の独自性は何か？ またそれらに対する意見

＊ 清陵の独自性としては、まず『自治』が上げられる。校則もなくさしたるルールもない。但し、我々は『自由』をともしれば履き違えている。必要最低限実施しなくてはならぬことを無視して自由は語れない。その傾向を危惧している。

＊ 伝承しているものに地方会があるが、その活動は、清陵祭の『地方会劇』や『仮装行列』のデモ行進など。ただ、イベント的に表面的で形骸化しており、主張が明確でなくなっている。先輩達が意図した地方会本来の存在意義から大きくかけ離れているのではないか？

＊ 勉強と部活を両立できる環境があるのも本校の特色と思う。双方に力を入れたい。

(2) 清陵で何を学び、何を吸収できているか？ または、何を学び、何を吸収したいか？

＊ 目標を高いレベルに設定し、向上心をもって目標を成就できるよう日々鍛錬したい。

＊ 教師から指示されてではなく、生徒の自主により行動できる環境にありそのなかで自立心を養いたい。

(3) 自由意見 (OB・教師他へのメッセージ)

＊ 湖周マラソンに教員のみならず、OB が参加するのも清陵の特徴ではないか。

＊ 勿論『自立』して行動することが望ましいが、反面、仲間と支えあってやっていることが多々あり、仲間意識が強い。

2. 清陵・箒球部に関して

(4) 箒球部として継承しているもの、後輩に伝承したいものは？

＊ 練習に臨む態度が良いと思うし、伝統を感じる。

＊ 先輩・後輩の壁がなく、先輩に意見できる雰囲気も過去から引き継がれたものと思う。

＊ 練習内容、戦法を生徒が顧問に提案する風土、意欲があり、また顧問も提案を真摯に咀嚼し、アドバイスをくれる環境がある。

＊ 練習・試合以外の会場準備、体育館の清掃等の仕事も皆が率先して行える。

＊ 以上を考慮してか、清陵のバスケ部の雰囲気他校か

ら羨ましがられたことがある。

(5) 箒球部員として、自身は何を吸収できているか？ または何を求めているか？

＊ 辛い練習からも逃げないことが日常生活にも役立つと思っている。

(6) 日々の部活動で自身が求めているものは何か？

＊ 全力でプレーするなかで自身の限界点を見つきたい。

＊ チーム全体の雰囲気が高まるように声を出して盛り上げたい。(キャプテン)

(7) 公式戦での目標は？ 公式戦で得られるものは？

＊ 県大会ベスト4を目指し、『勝利のために技術向上したい』という向上心を持って毎日練習している。

＊ 勝利したときの達成感を糧に技術を磨いていきたい。

(8) 自由意見 (OB・教師他へのメッセージ)

＊ 顧問の先生の熱意、OB の多大な支援がある。

3. 清陵高校・校歌について

＊ 校歌を歌う機会が極端に少ない(入学式、対面式、卒業式程度)。

＊ 長くて覚えられない。覚えようとしめない。

＊ 入学前に練習する地方会も2～3に限られている。



近年の男子バスケットボール部員は、現実的な目標を掲げつつ、何とか公式戦でそれを成就すべく、限られた練習時間の中で日々研鑽している。ここ数年も最終目標に到達できないことがほとんどだが、彼らの多くは、勝敗以上の『大きな財産』を胸に最後のボールを置いているようである。

最近の情報洪水、閉塞社会、浅薄な人間関係は、我々の追憶の心情に一層拍車を掛けるが現代の清陵生は、それなりに自我、人生観、世界観を保持しているようであり、『高き志を身に負ひて』彼らなりの人生を謳歌せんことを祈る。彼らこそが次代の日本を背負っていく連中なのだから。

サッカー部

“今、昔・・・”

暮れも押し迫った12月21日、久しぶり(実に35年ぶり!)にサッカー部を訪ねた。サッカーグラウンドは当時とは異なり、以前校舎のあった場所に移っており、また当時は部そのものが存在しなかった野球部との併用になっていた。いずこの高校でもあることだが、ここでもやはり野球部とのグラウンドの併用には頭を悩ませていた(勿論同様に野球部にとっても)。

当時のサッカーグラウンドは現在校舎(職員室や玄関がある方)のある所にあった。そのグラウンドは極端に言えば二等辺三角形の頭頂部をカットしたような台形をしていた。反対側のゴールラインの幅がペナルティーエリアの端くらいしかなく、コーナーキックは飛び過ぎて

中島 秀明(77回)記
しまい、あまりその意味をなさなかった(スローインが最適なセンタリングになった)。また、タッチラインは片側が石垣で他方が金網であったので、タッチラインの近くでは思わずスピードを緩めてしまえばボールを最後まで追わなかった(跳返りのを待つ方が効果的で楽だった)。当時サッカー部の監督であった矢島先生から、他校との試合での清陵サッカー部のライン際の甘さはここに起因しており、肝心なところで勝てない要因の一つであるとの指摘を受けたことを鮮明に覚えている。今は、そういったことはないようだが、やはり野球部との併用ということで縦も横も狭く、また野球の硬球が飛び込む恐怖は当時にはなかったことである。

現在のサッカー部を少し紹介してみよう。監督は社会科の小島先生でキャプテンの永田君（2年生）を中心に部員数は26名（1・2年生、女性のマネージャーを含む？）とのことである。練習は週6回（月曜休み）行っている。週に一度は外部コーチが来てくれるとのことであった。先の新人戦では南信3位ということで、惜しくも県大会には行けなかったとのことであった。

サッカー部として伝承していることが何かあるか？と聞いたところ、部員が車座になって新人に自己紹介（冷やかしを入れながら）をさせるのが伝統だということで早速見せてもらった。当時は、このような新人の自己紹介は地方会や試胆会でよくやっていたので、サッカー部独自というものではなかった。いつの頃からか、それがサッカー部の定番になっていったということなのだろう。

次に、サッカーやサッカー部を通じて求めていることを聞いたところ、楽しさや根性、自立することや努力すること、集中力やチームワーク、勝つことの喜び等々……学校における普通のクラブ活動で予想できるような事柄が並んだ。

そこで、サッカー部としての目標を聞いたところ、上田西や岡谷東に勝ちたい（何か因縁でもあるのだろうか？）というコメントがあった。キャプテンの永田君からは総体ベスト8が目標ということであったが、部全体の目標としてこの目標を共有して目指しているとは言い難い印象を正直に言って受けた。ただ、その目標を達成するためには、具体的に上田西や岡谷東に勝つことが第一であるとすれば納得がいくことではあるが……

その後、練習の一部を見せてもらったが、個人的なスキル（ボール扱いやサッカーの基礎技術）はそれぞれにかなり高いのではないと思う。多分、小・中学校からサッカークラブを通じてやってきたためであろう。Jリーグの発足（1993年）以降、日本におけるサッカーを取り巻く環境は当時に較べて別世界の感があり、こういう技術的な面では驚くべき進歩があるが、清陵サッカー部でもそれは顕著であった。ただ、これは他の高校においても同様であるから、これらのスキルを試合で発揮して試合に勝つためには、試合の終盤においても常に動けるフィジカルとチームとしての戦術が必要である。このことは、キャプテンの永田君もよく認識しているようで、これからの冬場は特に基礎体力及び技術の向上という具体的なイメージを持って練習していた。

しかしながら、こういう点は実際には監督またはコーチが系統だって指導していかないとなかなか結果にはつながらないものである。特にフィジカルの練習は辛いものであるから、生徒同士で練習を管理していくには難し

い面も多い（昔もこういう練習ではよく手を抜いていたなあ）。そういう点では、このような練習も含めて管理し、常時指導

することができる監督またはコーチの存在が極めて大きいと思う。それは近年、高校サッカーにおいては優秀な監督・コーチのいる学校がいい成績を納めていることから明らかであり、そういう意味において監督である小島先生にはOBとして大いに（無責任にも）期待するものである（先生もお忙しい中で大変でしょうが……）。

また、前述したグラウンドの狭さもさることながら、サッカー部の部室がわずか三畳ほどの狭さで、1・2年生は部室の向かいの青空天井に靴、服やその他の備品を置いていた。雨や雪の降っているときはまさにそれらは野ざらし状態になるのではないかと。当時は、少なくともそのような環境ではなく、サッカー部としての部室もそれなり配慮されたものであったと記憶している。このような状況は、勿論、サッカー部だけの固有な問題ではないと思うが、予算も限られた中で大変だとは思うものの、少なくとも女子生徒に筋骨隆々たる肉体美（???）を披露することなく着替えができ、かつサッカー用品を雨、風にさらさないで置ける場所に関しての学校側の配慮を切に望むものである。

最後に、清陵そのものに関して聞いたところ、自由であることが良いところであるとしていたが、廊下やトイレや、また全体的に汚いことや暖房設備の不備を不満としていた。また、女生徒が少ないことを不満にしていたが、当時の校内の汚さや女生徒の少なさ（たった1割程度しかいなかった）から見れば、今は見違えるようであり、また“質実剛健”が当時の清陵生モットーの一つであることを思うと、多少なりとも時の流れとそれに伴う清陵生の気質の変化を感じずにはいられなかった。

以上が、わずか1時間程度の短い時間の取材を基にした現清陵サッカー部の紹介である。最後に、35年前の清陵サッカー部を知る者として、今でも清陵サッカー部が立派に活動していることを認識できたことは大きな喜びであった。また、良くも悪くも、生徒の主体性がベースになって活動している点は当時のサッカー部と同じであり、その点においても感慨深いものがあつた。

高校生であるが故に、勉強もしなければならぬ、また遊びたい誘惑も多い中でサッカー部に入ってサッカーに時間を費やすことに多かれ少なかれ疑問を感じることもあると思う。しかしながら、人の一生の中で、純粋にサッカーができること、またサッカーを通じて仲間との葛藤を経験する時期もそんなに多くはないのではないかと。そういう意味でも、今は思う存分サッカーを楽しんでもらいたい。それがいつまでも色あせない一生の思い出になるのだから……と、ナイターの灯り（当時はなかったなあ）に照らしだされてボールを追いかけるサッカー



部の後輩たちを35年前の自分たちと重ね合わせながら
そんなことを漠然と思っていた。

ガンバレ！後輩たち！

卓球部

アンケートをしました

卓球部のキャプテンは中野君です。

①部員数：

男子10名、女子3名、計13名（1・2年）

②練習時間：

平日／4：00～6：30

土曜日／9：00～12：00

③目標：

団体戦で県大会に出場すること

④大切にしていること、モットー等：

- ・学習と卓球との両立
- ・卓球だけでなく、率先して清掃や挨拶等行動する

みんな明るく一生懸命練習していました。先輩としてうれしく思いました。今後の活躍を期待します。

PS. そう言えば

私たちの頃はよく

トランプ等やっていたことを思い出します。もちろん練習もしましたが。



平林 正男（77回）記

音楽部

ハーモニーに注目

部長：八幡智子さん（2年生）

練習：毎日16：00～18：00

現在の部員：13名（女声8名・男声5名）

活動：清陵祭、合唱フェスティバル、クリスマス、合唱コンクール

曲目：ポップス、ゴスペル、合唱曲ほか

そもそも合唱人には純真無垢な人が多い。私もその1人と自負しているが、素直で、ほがらかで、一生懸命な清陵生がそこにいた。

17：00

音楽の藤森先生をお願いしておいた時間に練習室に入ると、3～4名のまとまりで発声練習をしたり、歌ったり、しゃべったりしているところであった。

「部長さんはいらっしゃる？」と尋ねると、「はい」というほがらかな声が返ってきた。

「オーイみんな」と全員を呼んでくれ、私の大昔の思い出（校舎や先輩との思い出、当時の行事、昔の練習風景、自分の歩みなど）などを交えながら、みなニコニコしながらインタビューに応じてくれた。

3年生は1人だけ。現在は1～2年生のみです。皆が楽しみながら仲間を増やしている様子。

私としては30年以上も前の部が、現在も継続してくれてとっても嬉しかった。

■現在の活動は？

自分たちでやりたいと思ったことを探してきて、現在は歌だけではなく、楽器演奏もやっています。歌は合唱曲やゴスペラーズのアカペラの曲、自分たちで曲を自由に編曲したりして、女性だけでやったり、男性だけでやっています。ピアノを弾ける人も男性を含め何人も居た。昔とは大違いである。

清陵祭のほかに合唱フェス



小口 武男（77回）記

ティバル、コンクールもある。今年はNHKコンクール7月にも出ました。

（途中モジモジしてインタビューの教室に入ってこれなかった1年生が入ってきて 爆笑）

コンクールはいろんな学校の歌が聴けるので楽しかった。周りの学校も人数が少なく、合同でやったりしていました。

今までは2人とか3人でやっていたが、文化祭で合唱祭を契機に、ここまで仲間が増えてきて他の部活からも「音文メッチャ人増えてるよねっ」で言われている。盛り上がってきている。

■歌って楽しい？

仲間が良くていい。レストランに行ってライブもやっている。

「これって言っちゃいけないかな…」と茅野市の「カエデの木」。

一昔と比べて大変な活動量に驚く。

練習は毎日やっています。練習場所は国4教室と音楽室で練習しています。

音楽系の部活は結構さかん。古典ギター、室内コンチェルト、吹奏楽がある。

音取りなんかもそれぞれスピードが違うので、練習が大変。

あまり合唱的なことは気にせずにやっています。

■先生は来ますか？

放任です。

「これは伝統だね。」と私。

一昔もほんとうに先生は何も教えてくれなかった。しかし、勝手にやらせてくれたから楽しかったな一。

■皆から一言

A君（1年生） この部活はとても楽しい。先輩たちもやさしい。入った目的は中学の時もやっていた合唱をやりたいだった。ポップスが多いが、私はもっと合唱曲に参加したいと思っている。



B君(1年生) A君に誘われて初めて入った。声もだんだん出るようになった様子。

Cさん(1年生) 入ったばかりなんですけど。もともと音楽が好きで、楽器をやっているのも魅力的で入りました。

Dさん(1年生) わたしはついこないだ入ったばかりで、中学校の時吹奏楽部をやっていました。歌とか音楽が好きなので入りました。

—この子はアルトの良い声。

E君(2年生) 野球やっていたんですが、けがをして医者に止められ、ふらふらしているところで音楽の先生にやらないかと誘われた。

—この子はテノール。

F君 自分も中学の時はバスケをやっていて、まったく音楽とはかかわりがなかったのですが、音コンやって誘われて音楽が好きになりました。

G君 2年生になって友達に誘われて入ったのですが、入って良かったと思っています。

Hさん 合唱曲も好きなんですけど、アカペラをやりたいかった。2年になって誘われて合唱部に入った。好きな曲もいっぱいできて、いい友にも恵まれて、楽しくやっ

ています。

Iさん いろんな人に声をかけて仲間を増やして、入った人に良かったと言ってもらって良かった。

■目標は何人？

J部長さん 少ないのはそれなりに楽しいし、多いのもそれなりに楽しいです。

—これは模範解答。

Kさん 英語部に入っていたんですが、英語部の友達から誘われて入りました。

■困っていることはありますか？

発表の場がないので、あったら提供してください。もっと外に出ていきたい。

もっと発表の場を頂けたら楽しいと思います。

「すごく積極的だね。同窓会に呼んだら来てくれる？」
「はい。」

アカペラをやっているのですが、楽譜が少なく、曲を聴いて耳でコピーして楽譜を起こしているが、それがとても大変。

—すこしでも協力できないかなーと思いました。

■最後に「写真を」というと、合唱の体形になり、私のために2曲、歌のプレゼントを頂く。

これがなかなかうまい。音量よりもハーモニーを大切にして、それぞれが楽しみながら歌っている。

—小生、ウルウル状態。

元気づけに行こうと思っていた私が逆に大いに気持ちのいい時間を頂いた。

今の若者に感謝して40分のインタビューを終えた。

吹奏楽部

伝承、そして伝統へ

文化系の部活動のなかでも群を抜いて吹奏楽部は部員数が多い。だが、発足当時はわずか8名の同好会。ところが発足4年目にして部員数は50名を超えた。更に平成に入ってから、ピーク時には87名を記録した大所帯である。そして今…、1年生が加わる前の3月、卒業生が17名抜け、23名が残った。その中で男子生徒は2名のみである。平成になってから吹奏楽部という女子主体の部活動であるという先入観がいつの間にかでき上がってしまったようだ。部長の小平香織さんはそれを否定しない。しかし男子メンバーが増えてほしいとは思っている。練習は平日毎日欠かさず放課後2時間、休日は朝8時から午前中一杯、大会が近い時は1日中とけっこうハードであるが、部員たちは一様に勉強や普段の生活に対してむしろこのリズムが定着していて、辛いと感じることはないという。その練習であるが、自主の精神からそれぞれの個人練習を1時間ほどしたのち、どこにも負けない元気な挨拶と返事のなかロングトーン・バランスなどの全体練習が行われる。最後に顧問の藤森先生のもと、曲の練習を行うのであるが、実に小気味良く曲が仕上がっていく。

吹奏楽部の歓迎コンパ、追い出しコンパは圧巻である。

阿部 泰和(77回)記

全員輪になって座り、それぞれ熱き想いのうちを語り合う。歓迎コンパで新入生はそこで清陵を感じ取り、追い出しコンパで在校生は卒業生から清陵の伝統を受け継いでいく…。かつての談論会がそこに脈々と受け継がれているのである。

清陵ウィンドオーケストラ。HPに堂々と載っているように管弦楽団のような迫力で、演奏するぞという気概—山をも抜かむ意気をもて海をも呑まむ概をもて—をそこに見た気がした。



松下勲同窓会長に聞く



長田 松下会長、本日はお忙しいところを有り難うございます。調べましたところ、会長は何故か清陵高校の節目、節目に重責を担うポジションに就かれているのですが。

松下 その時々めぐり合わせでしょうか。同窓生としては大森栄先生、小菅重男先生に次いで3人目ですが、ちょうど母校創立百周年の年に着任

しました。教員生活の締め括りとして母校に赴任できたことは幸せなことでした。

長田 当時は県下の高校では初めて女性の教頭を登用するというので、清陵がその嚆矢になったと聞いておりますが、百周年記念事業を含めて大きな事業が続いて、さぞや大変な思いをされたと存じますが。

松下 清陵という恵まれた環境の中で、新任の教頭を大事に育てようと考えたのでしょうか。彼女は細かな点にも心配りし、よく努めてくれました。

百周年の時の同窓会長さんは小菅重男先生でしたが、母校へのトレーニングセンター「高志館」の新設をはじめ、パンベルグ交響楽団の招聘やシャガール展などは諏訪地区の高校生にも広く還元してもらうなど、温かなお心遣いを頂き、本当に感謝しております。

長田 今回の場合は、同窓会長になられたところ、ここ数年の懸案であった高校再編の問題に直面することとなり、本日はその点について、いくつか伺って同窓会員にもそれらの経緯をお知らせしておきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

松下 そうですね。同窓会としては、その目的の一つに母校の発展に寄与することを掲げておりますので、会員の皆様方のご協力の下に、これまでも生徒諸君の学習環境の整備やクラブ活動の援助など、日常的に支援してきております。

このたびの母校の教育改革については、数年来、諏訪地域の中学生の一部が他地区に流出^{*1}していることに端を発しているわけですが、同窓会としても平成18年度に林前会長さんの時からこの問題に何らかの対応を考えていく必要があるとして、小委員会を設けるなどその推移を見守ってきました。同窓会としては、これまでも会報や本部総会、支部総会等でお話ししてきたように学校の教育改革の方向に沿って母校を支援していくその姿勢は変えないつもりでおります。

長田 メディア等では、高校再編という言葉を使っておりますが？

松下 平成20年6月に県教育委員会が高校再編計画の骨子案を出しておりますが、そのなかで諏訪地区中学生流出等の課題解決の方途として、新しいタイプの高校の導入について、その検討が提起されており、広い意味では高校再編とも言えますが、清陵に関しては「魅力ある高校づくり」の一環として捉えた方が分かり易いのではないかと思います。

長田 人材の流出について、諏訪地域では殊に憂慮すべき状態にあると言われておりますが、その点がやはり中心課題として現前しているということでしょうか。

松下 そうです。現在では、単に高校入学の際に限らず、小学生段階での他地区への流出も顕在化しており、中学生も依然として流出し続け、各高校のご努力にもかかわらず、なかなか歯止めが掛からず懸念されております。諏訪地域の将来を考えますと、地域の生徒は地域で育てていくということが大切なことではないでしょうか。

長田 数年前とは異なり、この人材流出については、諏訪地区の小中学校でも話題となっているようです。

松下 これまで2回ほど中高一貫教育という話題が出された時には、諏訪地区の他の中学校への影響を懸念する声が強かったと聞いておりますが、最近の諏訪地区中等教育懇談会^{*2}ではむしろ小中学校の学校関係者からも流出現状の解決策として、中高一貫教育校の設置を期待する旨の報告がなされました。このことは、この地域でも何らかの方策を打ち出そうとする意志の表れであるとも言えるでしょう。

長田 同窓会でも中高一貫教育について、常任幹事会や幹事会で検討され始めたようですが。

松下 先ほどお話ししたように、同窓会としては既に平成18年度から母校の教育改革の選択肢の一つとして捉えてきたわけですが、このところ、母校の取り組みや諏訪地区の状況、県教委の動向^{*3}など次第に動きが見られます。

そこで、昨年12月、臨時の常任幹事会を開催し、中高一貫教育等についてのご提案をし、そのなかで同窓会としても既実践されている公立の併設型中高一貫教育校^{*4}を視察し、その実態を把握する必要があるということで、本部役員が分担し、視察してまいりました。

長田 2月の幹事会でご提案された中での報告事案ですね。

松下 ええ、そうです。具体的には県立浜松西、都立武蔵、県立千葉、府立洛北高校の4校について視察した結果を報告しました。視察校での導入の経緯はまちまちですが、私の訪問した浜松西高校では、中高一貫性のある系統的な教育課程のなかで、生徒たちは伸び伸びと学校生活を送り、体験学習やグループ研究など幅広い学習をととして、充分時間をかけて自己の生き方や進路を主体的に考えていくなど、進学一辺倒に偏らない全人教育を目指している様子が伺えました。課題もありますが、既に卒業生を出しており、結果として進路状況も飛躍的に向上しておりました。

長田 今後の動向についてはいかがでしょう。

松下 若干不確実な点もありますが、2月の幹事会において、清陵が中高一貫教育を導入することになった場合は、同窓会としてはこれまでの経緯を踏まえ、支援していくことで了解頂いておりますので、会員の皆様のご理解とご協力を得ながら物心両面にわたって支援してゆくことになると思います。

長田 このほか会員にメッセージなどありましたら、お願いします。

松下 会報等でも逐次お知らせしておりますが、財団法人諏訪清陵会について、平成25年12月からの公益法人の新制度移行に伴い、新制度移行委員会を立ち上げて検討しております。現在、財団には5500万円の基金があり、毎年母校の生徒諸君の学習環境を支援しております。新制度の下でこれまでどおりの支援を続けるために、税制上は若干デメリットはあり

ますが、一般財団法人の非営利型・非営利性が徹底された法人化の方向で考えております。また、ご意見等お寄せ頂ければと存じます。

私も各支部総会にはできる限り伺いしておりますが、それぞれ特色あるお取り組みをなされ、和気藹々本当に楽しい会です。是非ご都合をつけてお出かけ頂きたいと思います。母校へも折に触れ足を運んで頂ければと思います。

長田 本日はどうも有り難うございました。

*1 諏訪地域の中学生の流出

諏訪中学校長会進路指導委員会の調査によれば、平成20年度について、諏訪地区中学校卒業生1883名のうち、松本・塩尻地区へ78名、山梨県へ46名が進学している。また、諏訪小学校長会進路指導委員会の調査によれば、平成20年度について、諏訪地区小学校卒業生1885名のうち、松本地区などの地区外へ36名が進学している。

*2 諏訪地区中等教育懇談会

諏訪地区の中学校及び高等学校が、地域に根ざし生徒の成長願望に応え得る魅力ある学校として、各学校がさらなる発展充実することを願い、平成19年1月24日に設置された。メンバーは、諏訪地区小学校長会代表(3)、中学校長(17)、特別支援学校長(2)、高等学校長(10)、諏訪地方市町村教育委員会協議会代議員(12)、諏訪地区小学校・中学校・高等学校PTA代表(6)等で構成されている。

平成22年2月5日、研究委員会平成21年度末報告で、これまでの視察・研究等を踏まえ「公立中高一貫校はほぼ全国的に導入されており、多くの評価すべき特徴がある。様々な成果が期待でき、諏訪地区の流出問題への対策としても評価で

きる。一方で留意すべき点もあるので、これらに十分配慮しながら、諏訪地区への設置を期待する」と提言している。

*3 県教育委員会の動向

県教育委員会では、平成21年6月、中高一貫教育について併設型中高一貫校を東北信、中南信に1校ずつ設置する方針を示し、同年8月には本県におけるモデルケース(案)として、その教育理念、設置形態、設置校の選定、留意点等を示している。

*4 併設型中高一貫教育校

中高一貫教育校には3つの型がある。

1つは中等教育学校で、6年間一体的に中高一貫教育を行うタイプで、生徒は全員小学校卒業時から入学する。入学については学力検査は行わず、それぞれの学校の特色に応じて面接、実技、抽選等の方法を組み合わせて行う。

2つ目は、併設型の中学校・高等学校で中等教育学校よりも緩やかな設置形態であり、同一の設置者による中学校と高等学校を接続している。併設型の中学校の入学については中等教育学校と同様の方法で行う。高等学校段階では、中学校から入学した生徒と高等学校から入学した生徒が一体となる。

3つ目は、連携型の中学校・高等学校で、既存の市町村立の中学校と都道府県立の高等学校など、異なる設置者による中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を行う。

平成20年度現在、中等教育学校は国公立23校、私立13校、計36校、併設型は国公立61校、私立158校、計219校、連携型は国公立78校、私立1校、計79校である。

篠原秀郷学校長に聞く



長田 今日「現場の声」を直接におうかがいして、会報に掲載したいとの企画でお忙しいお時間を割いていただきました。よろしくお願いします。

篠原 現場をあずかる者として、会員の方々に直接我々の思うところをお伝えできることは大変有り難いことです。よろしくお願いします。

長田 篠原先生は清陵に赴任されて1年ということですが、その第一印象はどのようなものでしたか？

篠原 古いという印象をもちました。現今の高校教育に求められる姿は、真の意味で「不易流行」の精神を具現した教育内容であり、まさに「自反」することが必要とされるものであると思われます。そのうえで更に将来を見据えた丁寧な指導を加えていくことが私ども教職員に求められていると思います。

長田 長野県の全国的にみた学力低下といった課題が指摘されておりますが、学校長のお話にはその点を踏まえられての感想があると思われますが。

篠原 そうですね。清陵には進学校としての使命というものがあるかと存じます。それは単に勉強ができるというだけでなく、「志」をもって自分の世界を切り拓いていく、そうしたなかで地域や世界をリードしていく人材を育てていく役割があるの

ではないでしょうか。

長田 地域や世界をリードしていくといった視点に立って、現在の学友会のあり方をどのようにご覧になっていますか。

篠原 まずは、この学友会誌に掲載されている前・後期会長の巻頭言をご覧になってください。

(一読したところ、学友会長として一般の会員の学友会活動に対するあまりにも無関心な点を指摘しており、これでは清陵自治精神を築いてきた先輩に顔向けできないという思いと、いやしくも清陵生としてこの現状を打破する気概をもつべきだという熱い思いが述べられていた)

学友会の現況については、この2人の記事が如実に示していると思います。役員の諸君は大変立派に活躍していると言えます。

長田 私たちが在学していた当時と最も異なるのは女子生徒の割合ですが。

篠原 現在、現役清陵生の約4割が女子生徒となっていますが、クラブ活動にも積極的に参加している者がいて、全国的な大会に出場している状況でもあります(かるた・端艇・吹奏楽・イングリッシュ部等)。

長田 施設に対する要望といったものはありますか？

篠原 それは、やはり敷地の広さの問題に尽きます。

長田 同窓会に望むことといったら何かありますか？

篠原 直接的なお願いといえは、現在、清陵高校内で保管を

篠原 去年は大学の教室ゼミで1グループの来館がありました。が、活発な利用状況にあるというところまでは至っていない

篠原 やはり自らの分野を発見して、それこそ世界中に出て
いってほしいですね。そうした尊い経験のなかから自らの
学問や世界を是非とも築き上げてほしいと願わずにはお
れません。

小池 真面目な子も多い。ただクラブ活動への参加という、気にかかるのは女子の入部率が低いのがあげられるね(男子75%・女子41%)。心配なのは、熱心な子がいる反面で、勉強にも、クラブにも余り熱心でない女子の数が多く感じられることだね。何か1つのことを発見して、自分からコツコツと努

小池 他の学校でも教鞭を執って感じたことは、こちらからあまり手を出さない方がよいということ。どうしても手助けをしたくなるんだが、それは清陵生にとってあまりよろしくないと思うね。むしろ自らの問いを自らが発見するという点を気づかせるために見守りながら放っておくということが大切だと思う。こうしたことは生徒本人だけでなく、PTAを含めて理解し合うことが不可欠なんだが、そういった意味で、親御さんたちとのコミュニケーションや飲みニケーションは必要だね。

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓打
って飲む酒。

大切な家族に安心してすすめられる
酒。

親しい友人に胸を張って贈ることが
できる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届
けたいと願っています。

だから、品種や産地が分からない米
は買いません。

製造工場のディテールには徹底して

こだわります。

一〇〇%自社製造を守りぬき、
純米酒比率の向上にも力を注いでき
ました。

創業から三四八年目となる今年も、
私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の
顔に重ね合わせながら

美酒を醸し続けます。

学校だより

2010年4月6日(火)、入学式が執り行われ242名(男子145名、女子97名)の新入生の入学を許可し、全校生徒729名(男子427名、女子302名)、教職員63名で平成22年度の新しいスタートを切りました。

それに先立ち、3月6日(土)には第62回卒業式が挙行され、242名(男子138名、女子104名)の生徒がそれぞれの将来に向け本校から巣立ちました。

学友会、1年間の行事を振り返る

清陵祭

第59回清陵祭が2009年7月6日から開催されました。金曜日の前夜祭では伝統の談論会(内容は昔とはかなり異なりますが)が行われ、土曜日午前中の文化講演会には横浜市立大学の上村雄彦先生をお招きしました。土曜日の午後と日曜日は一般公開で各クラブの展示発表、また様々なイベントを楽しみました。また、月曜日には合唱コンクール、運動会と続き、ファイアーストームで4日間を締めくくりました。

端艇大会

9月9日、好天に恵まれ端艇大会が下諏訪漕艇場にて開催されました。一昨年より各クラスの応援も点数に入る方式となり、様々な趣向を凝らした応援が見られました。



湖周マラソン

10月21日、開会式にはこのマラソンの創始者山本喜市先生の娘さん(96歳)にも参加していただきました。昔とは違い諏訪湖の周りはジョギングロードが整備されていて快適に1周しました。変わらぬのは「うし



まさ坂」とゴール後に食べるリンゴの味でした。

*今年度の予定です。

清陵祭 2010年7月2日～5日

端艇大会 9月6日

湖周マラソン 10月21日(同窓生も参加できます)

2009年度クラブ活動における顕著な実績(全国大会)

端艇部: インターハイにおいて男子舵手付きクオドルプル5位入賞

イングリッシュ部: 全国高校生英語ディベート大会にて5位入賞(県大会優勝)

古典ギター部: 全国高等学校ギターマンドリンフェスティバルにて優秀賞受賞

スケート部(フィギュア): 野口博一選手、野口真紀子選手インターハイ出場

かるた部: 全国高等学校かるた選手権出場

フォークソング部: 関東甲信越ブロック軽音楽フェスティバル出場(県大会優勝)

その他県大会出場クラブ

将棋部(団体準優勝)、吹奏楽部(フルート三重奏で県アンサンブルコンテスト銀賞受賞)、陸上部、バスケットボール部(男女とも)、軟式テニス部、柔道部、男子バレーボール部、卓球部、野球部、サッカー部、水泳部、ハンドボール部、剣道部

(学友会顧問・大久保純男)

端艇部、インターハイ連続入賞

—男子舵手付きクオドルプル5位

滋賀県琵琶湖漕艇場で開催された、平成21年度インターハイボート競技大会に、男女舵手付きクオドルプル、女子ダブルスカル3クルーが出場、昨年の埼玉イ



医療法人 順 恵 会 伊藤外科医院

院長 伊藤隆一 (第58回生)
医学博士

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483
TEL 0266-41-3388

不二屋代表取締役 新村 良雄 (四九回)
新村 隆 (八五回)
下諏訪町四ツ角
TEL (〇二六六) 二七七八五〇五
FAX (〇二六六) 二八七〇九五

諏訪名産
初霜

インターハイ女子舵手付きクオドルプル3位入賞に引き続き、今回は男子舵手付きクオドルプルで5位に入賞いたしました。この種目では県勢初の入賞です。

インターハイ出場に際し、ご支援ご声援いただきました同窓会長はじめ同窓会や端艇部OB会の皆様に感謝申し上げます。

今年度のインターハイは沖縄での開催、全種目での出場を目標に頑張っています。今後のご支援をさらにお願いいたします。

(端艇部顧問・橋本 智)

かるた部、全国高校選手権へ

かるた部は平成20年にできた新しいクラブですが、県内に百人一首をやっている学校が少ないため2年連続で全国大会出場を果たしています。平成21年度は7月に近江神宮で行われた全国高校選手権大会(団体戦)に長野県代表として出場しました。予選リーグ2勝1敗で惜しくも決勝トーナメントには進めませんでしたが、無名の清陵が福井、三重の代表を破ったことはちょっとしたニュースでした。個人戦ではD級(無段の部)で部長の笠原萌花が優勝を飾りました。

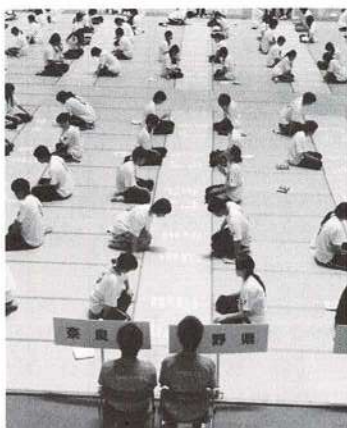
8月に三重県で行われた全国総合文化祭には長野県選抜チーム8名のうち清陵から4名が出場しました。

11月に福井県で行われた北信越大会では清陵中心の長野県Bチームが2位になる健闘をみせました。

また段位が取れる全国規模の大会に積極的に参加し、3月末までに7名が初段を取得しています。

いずれの大会におきましても清陵会より参加費・遠征費の補助をしていただき生徒はほんの少しの自己負担で参加させていただいています。この場を借りて、感謝申し上げます。

今年度も近江神宮の大会と全国総合文化祭の二つの全国大会出場を目標に活動していく予定です。これからも



ご支援のほどよろしくお願い致します。

(かるた部顧問・岩波文人)

イングリッシュ部、 全国高校生英語ディベート大会で5位入賞

09年10月に伊那市で開催された第17回長野県高校生英語ディベート大会において本校イングリッシュ部選抜チーム(黒澤友紀、濱陽子、笠原実季、唐沢みづほ)は8年ぶり5回目の優勝をし、12月に埼玉県で開催された全国大会に出場しました。全くの無欲でのチャレンジだったため、リラックスし持ち前の英語力と柔軟性を最大限発揮し、予選リーグで益田清風(岐阜県)、渋谷教育(東京都)、前年3位の南山女子(愛知県)に勝ちベスト8進出という予想外の健闘をしました。準々決勝の相手は前年優勝の栄光学園(神奈川)でした。善戦しましたが一歩及ばずここで敗退、総合得点により5位入賞となりました。この大会参加に対して同窓会より激励金をいただきました。有効に使わせていただきました。本当にご支援ありがとうございました。

また、去る3月、諏訪市国際交流協会による姉妹都市交流プログラムに本校イングリッシュ部より2名の生徒(小野菜、篠原映美)と私(大久保)が参加し、アメリカのセントルイス市を訪れ、ホームステイを体験し、現地の高校にも通学しました。本当に貴重な経験でした。今後に生かしていきたいと思います。

(イングリッシュ部顧問・大久保純男)



SSH「海外科学セミナー」アラスカ研修

2010年2月8日から13日まで4泊6日で、5回目となるアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスでの海外科学セミナーを、派遣生徒26名で実施した。

3夜にわたるオーロラ観測は、暖かく、雲もないうえに新月にあたり絶好の観測条件で、3夜ともオーロラを観測することができました。特に3夜目には幾重にも重

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **ノイズカットトランス**

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



高度情報化社会のアクセラレーター=不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす
株式会社 電研精機研究所
創業者(工博) 矢ヶ崎昭彦(47回)

本社：〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613
大阪営業所：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5フロスベリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777
ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等承ります。 URL <http://www.denkenseiki.co.jp/>

なるカーテンのような活発なオーロラが現れました。また、1、2夜目には目の前にあるアラスカ大学のロケット実験場から高層大気観測用のロケット打ち上げがあり、貴重な経験となりました。

アラスカ大学の研修では、生徒がアラスカ大学のホームページで調べてお願いした O'Brien 先生の北極海の魚の体のしくみの講義をはじめ、オーロラの世界的権威の赤祖父俊一先生の講義など8つの講義を受講しました。英語には苦労したようですが興味ある内容で好評でした。生徒の感想より

「オーロラをはじめて見て、ほんとうにキレイで感動した。星がとても明るくキレイに見えたり、流れ星がたくさん見られたのも感動した。自然ってほんとうにすごいものだった。マイナス 40 度を体験できなかったのは残念だったけど、3 日間全てオーロラを見れて運がよかったと思う」

(学校 SSH 係長・井口智長)



平成 21 年度末 教職員人事移動

転・退職職員			新任職員		
氏 名	転出先等	教科	氏 名	前任校等	
小松 文夫	辰野高	国語	丸山由起子	大日本法令印刷	
大森 由紀	諏訪二葉高				
山岡 久俊	伊那北高	理科	吉田 和正	下諏訪向陽高	
山岸 靖幸	伊那北高		日達一二三	下諏訪向陽高	
小池 忠男	岡谷東高	体育	鷹野 俊幸	伊那弥生ヶ丘高	
平林 義男	諏訪二葉高	美術	上原 一馬	富士見高	
五味 仁美	諏訪実業高	家庭	高木 祐子	梓川高	
藤森 政明	伊那北高	英語	塩野 敏彦	岡谷南高	
清澤 博	伊那養護学校	事補	井口 元成	こども病院	
秋山 充也	飯田保健事務所	事務	岡村 一	松本消費生活センター	
曾根原功伯	退職	校技	林 茂利		

平成 22(2010) 年度入試結果(平成 22 年 4 月現在)

国立大学			私立大学		
現役生	浪人生	合計	現役生	浪人生	合計
旭川医科		1	国際医療福祉	1	1
北海道	1	1	獨協医科		1
弘前		1	獨協		2
東北	3	3	文教	3	3
秋田		1	千葉科学		1
福島	1	1	目白	1	1
茨城	1	2	青山学院	6	7
筑波	2	2	亜細亜		2
埼玉	1	2	学習院		2
お茶の水	1	1	北里	3	5
東京外国語	2	2	共立女子	1	1
東京海洋	2	2	杏林	2	3
東京学芸	5	6	慶應義塾	4	4
横浜国立	2	4	皇学館	1	1
新潟	3	4	國學院		1
金沢		1	国士館	1	1
山梨	2	3	駒澤	2	6
信州	22	31	実践女子	2	2
名古屋	2	2	芝浦工業	5	13
京都	1	1	女子栄養	1	1
大阪	1	2	上智	1	1
神戸	1	1	昭和	2	3
奈良教育	1	1	昭和女子	4	4
広島		1	成蹊	6	6
鳥根	1	1	成城	2	3
徳島	1	1	国際基督教		1
九州		1	専修	4	5
国立大学合計	56	80	創価	7	7
公立大学			大正	1	1
高崎経済	5	3	大東文化	1	1
前橋工科	1		帝京	1	1
埼玉県立		1	玉川	1	1
首都大学東京	2	2	多摩美術	1	1
神奈川県立保健福祉	1		中央	10	13
横浜国立	4	2	津田塾	1	1
富山県立	1		東海	1	1
山梨県立	1	1	東京有明医療	1	1
長野県看護	2	1	東京工芸	1	1
愛知県立	1	1	東京経済		2
滋賀県立	1		東京工科	1	1
公立大学合計	19	11	東京歯科	1	1
国公立大学合計	75	35	東京慈恵会医科	1	1
国公立短大			東京女子	1	1
長野県短大	1		東京情報	1	1
国公立短大合計	1		東京造形	5	5
私立短大			東京電機	5	5
松本短大	1	1	東京農業	1	2
青山学院女子短大	1	1	東京薬科	1	1
私立短大合計	2	2	東京理科	2	7
専門各種学校			東邦	1	2
諏訪日赤看護専門学校	1	1	東洋	2	4
長野赤十字看護	2	2	日本	8	17
青山製図専門学校	1	1	日本医療科学	1	1
桑沢デザイン研究所	1	1	日本女子	2	3
京都伝統工芸大学校	1	1	法政	4	9
専門各種学校合計	6	6	武蔵	1	1
現役進学率			東京都市	1	2
卒業生数	242 人		武蔵野音楽	1	1
就職者数	0		武蔵野美術	1	1
進学者数	151 人		明治	4	4
進学率	62.4%		明治学院	6	12
現役進学率			明治薬科	1	3
卒業生数	242 人		立教	1	2
就職者数	0		早稲田	6	8
進学者数	151 人		神奈川	11	24
進学率	62.4%		神奈川工科	3	4
現役進学率			産業能率	1	1
卒業生数	242 人		上武	1	1
就職者数	0		金沢工業	1	2
進学者数	151 人		北陸	1	1
進学率	62.4%		山梨学院	1	1
現役進学率			松本歯科	2	2
卒業生数	242 人		聖隷クリストファー	1	1
就職者数	0		愛知医科	1	1
進学者数	151 人		中京	1	2
進学率	62.4%		藤田保健衛生	2	2
現役進学率			南山	1	1
卒業生数	242 人		名城	1	1
就職者数	0		鈴鹿医療科学	1	1
進学者数	151 人		京都造形芸術	2	2
進学率	62.4%		京都橘	1	1
現役進学率			同志社	1	2
卒業生数	242 人		同志社女子	1	1
就職者数	0		追手門学院	1	1
進学者数	151 人		立命館	2	2
進学率	62.4%		龍谷	8	13
現役進学率			近畿	1	1
卒業生数	242 人		関西	1	1
就職者数	0		関西学院	3	5
進学者数	151 人		神戸学院	1	1
進学率	62.4%		私立大合計	183	287

整形外科 外科 産科 婦人科

立 木 医 院

立 木 正 純 (38回) (整形外科)

(日本体育協会公認スポーツドクター)
(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)
(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)

立 木 委 枝 (産婦人科)

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24
電話 0266-52-1074

平成 21 年度 諏訪清陵高校同窓会 会務報告

4. 3 諏訪清陵高校第 115 回生入学式
新入生 241 名 (内女子 99 名) 松下会長祝
辞
○新入生に「校歌」CD・ビデオ「清水ヶ
丘にうたう」を贈る
4. 17 『同窓会報』編集・発送に関して
打合せ会 14:00 (清陵会館) 76 回生編
集委員・事務局
4. 17 上伊那支部総会 15:30 (辰野パー
クホテル) 松下会長・篠原学校長出席
4. 20 物故会員ならびに道志社先輩慰霊
法要 11:00 (地藏寺) 松下会長ほか 18
名参列
4. 24 母校への新任教職員歓迎会 18:
00 (ぬのはん) 松下会長・今井副会長・
事務局長出席
5. 12 (財) 諏訪清陵会会計監査・同窓会
会計監査 14:00 (清陵会館) 矢崎斉男
監事・河西節郎監事・今井副会長・石田
清陵会書記・事務局長
5. 18 『同窓会報』発送準備および本会
「定期総会」に関して打合せ会 13:30 (清
陵会館) 76 回生・事務局
5. 22 『同窓会報』第 35 号発送作業
13:30
○第 76 回生、母校 1 年生および学校同窓
会係職員の協力により 16,653 通を発送
5. 25 母校の発展を支援する会 14:00 (清
陵会館) 松下会長ほか 6 名
5. 25 (財) 諏訪清陵会の事業・予算に関
して打合せ会 16:00 (清陵会館) 石城
教頭・今井副会長・石田清陵会書記・事
務局長
5. 30 (財) 諏訪清陵会理事会・評議員会
11:30 (母校会議室)
○平成 20 年度事業報告・収支決算の承認、
公益法人制度改革に向けて、その他
同窓会常任幹事会 13:30 (清陵会館)
○幹事会提出議案審議
同窓会幹事会 15:30 (清陵会館)
○20 年度事業・各種会計決算承認、21
年度事業案・予算案承認。三澤文庫整
備事業、母校の発展を支援する会、そ
の他
懇親会 17:30 (清陵会館)
6. 26 定期総会準備会 19:00 75 回生・
今井副会長・事務局長 (ホテル紅や)
6. 27 平成 21 年度諏訪清陵高校同窓会定
期総会 13:30 ~ (ホテル紅や)
○平成 20 年度会務・会計 (一般・特別・
クラブ後援会) 報告。監査報告。21 年
度事業計画・予算などの承認。三澤文
庫整備事業、(財) 諏訪清陵会、母校の
発展を支援する会、その他。〔議長: 牛

- 山俊茅野支部長〕
記念講演
「私にとってのファンダメンタルズ」
講師: 小池康博氏 (76 回)
慶応義塾大学理工学部教授
- 懇親会 17:10 (ホテル紅や)
○アトラクション: 76 回生「復活バンド」
〔当番幹事 76 回生、次期当番幹事 77 回生、
サブ幹事 86・96 回生〕
8. 4 新公益法人制度に関する説明会
13:00 (長野市) 今井副会長 (財団常務
理事)
9. 18 当番幹事学年引継ぎ会 (76 回生か
ら 77 回生へ) 19:00 (仙岳) 松下会長・
事務局長
10. 16 東京支部 (東京清陵会) 総会
18:00 (アルカディア市ヶ谷) 松下会長・
石城教頭 出席
10. 19 母校の発展を支援する会 14:00
松下会長ほか 5 名
10. 20 「山本喜市先生記念碑保存会」役員
会 18:00 (緑水)
10. 21 母校「湖周マラソン」JOB23 名参加。
慰労懇親会 (緑水) 今井副会長出席
10. 27 三澤文庫運営委員会 14:00 (三
澤文庫) 金子委員長ほか 4 名
11. 18 (財) 諏訪清陵会の新公益法人移行
に関して相談 10:00 (県教委) 今井副
会長 (財団常務理事)
11. 20 諏訪支部総会 18:00 (諏訪シテイ
ホテル成田屋) 松下会長・篠原学校長・
石城教頭出席
11. 22 白石明子 (89 回) ピアノリサイタル
14:00 (下諏訪総合文化センター) 〔同
窓会後援〕
12. 5 常任幹事会 (臨時) — 今後の同窓
会活動に関して — 13:00 (清陵会館)
12. 7 次年度の総会・会報などに関して打
合せ会 10:30 (清陵会館) 77 回生・事
務局長
1. 13 学校視察・都立武蔵高等学校 13:
00 小川副会長
1. 19 学校視察・県立浜松西高等学校
14:00 松下会長・県立千葉高等学校
10:00 小川副会長
1. 25 学校視察・府立
京都洛北高等学校
14:00 上島副会長
1. 29 母校の将来に関
して現状と意見交換会
18:00 (清陵会館)
松下会長ほか 6 名
2. 1 (財) 諏訪清陵会
に関して打合せ会 (2.
13 役員会に向けて)
14:00 (清陵会館) 松
下会長 (理事長)・石
城教頭 (財団事務局
長) ほか 3 名
2. 6 茅野支部総会
15:30 (サンパレス)

- 松下会長・石城教頭出席
○牛山俊支部長が退任し、上條雄氏 (61
回) 就任
2. 13 (財) 諏訪清陵会理事会・評議員会
11:30 (母校会議室)
○平成 22 年度事業計画案・収支予算案の
件、公益法人制度改革に向けて、その
他
同窓会常任幹事会 13:30 (清陵会館)
○幹事会への提出議案審議
同窓会幹事会 15:30 (清陵会館)
○本会の役員改選、母校の発展を支援す
る会 (学校視察報告を含めて)、平成
22 年度定期総会と『同窓会報』、コンボ
・フィル演奏会への支援、その他
懇親会 17:30 (清陵会館)
2. 19 北信支部総会 18:00 (ホテル国
際 21) 松下会長・石城教頭 出席
○茅野實支部長が退任し、高見澤忠明氏
(61 回) 就任
2. 20 東海支部総会 11:00 (名古屋
キャスルプラザ) 松下会長・石城教頭
出席
2. 22 岡谷支部総会 18:30 (ホテル岡谷)
松下会長・篠原学校長出席
2. 27 富士見支部総会 18:00 (富士見・
大奥) 今井副会長・山崎事務長出席
2. 27 関西支部総会 11:00 (大阪第一
ホテル) 松下会長・石城教頭出席
3. 4 下諏訪支部総会 18:00 (ぎん月)
松下会長・篠原学校長出席
○野澤彰治郎支部長が退任し、高木鐵也
氏 (63 回) 就任
3. 6 母校第 113 回生卒業式 卒業生 242
名 (内女子 104 名) 松下会長祝辞
○同窓会から会長のメッセージを添えて
卒業記念品として印鑑セットを贈呈
3. 24 母校転退職職員送別会 18:00 (浜
の湯) 松下会長・今井副会長出席
○同窓会より饗別 (11 名)
3. 27 松本支部総会 16:00 (松本東急
イン) 松下会長・篠原学校長出席
他、三澤先生記念文庫の整備作業を年間を
通じて随時実施

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖マラソンOB・OG大会を下記により、母校の
伝統行事に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を
期待しご案内とします。

1. 日 時 10月21日 (木) 女子8時40分、男子9時スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約19.4km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート地点 午前8時よりゼッケン
受取り後スタート地点へ。終了後懇親会 (片倉館)。
4. 参加費 マラソンのみ2000円 懇親会まで3000円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断。

清陵湖周マラソンOB会

会 長 牛山 孝 (59回)
問合先 原 英充 (65回 Tel 0266-58-3547)
会 計 唐沢千明 (76回)

平成 21 年度 同窓会一般会計決算報告

平成 22 年度 同窓会一般会計予算書 (案)

収入総額 8,894,471 円
支出総額 8,499,295 円
差引残高 395,176 円 (平成 22 年度へ繰越)

収入総額 9,920,176 円
支出総額 9,920,176 円
差引残高 0 円

収入の部 (単位: 円)					収入の部 (単位: 円)				
科 目	予算額	決算額	増減額	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
前年度繰越金	1,420,201	1,420,201	0		前年度繰越金	395,176	1,420,201	- 1,205,025	
入 会 金	1,205,000	1,205,000	0	5,000 円× 241 名	入 会 金	1,205,000	1,205,000	0	5,000 円× 241 名
終 身 会 費	4,820,000	4,830,000	10,000	20,000 円× 241 名	終 身 会 費	4,820,000	4,820,000	0	20,000 円× 241 名
基本財産収入	130,000	178,511	48,511	定期預金利息	基本財産収入	150,000	130,000	20,000	定期預金利息
繰 入 金	1,205,380	1,205,556	176	110 周年特別会計より (解約)	繰 入 金	3,300,000	1,205,380	2,094,620	定期預金より
雑 収 入	50,000	55,203	5,203	普通預金利息, CD・100 年史・名簿等売上金, 他	雑 収 入	50,000	50,000	0	普通預金利息, CD・100 年史, 名簿売上金, 他
合 計	8,830,581	8,894,471	63,890		合 計	9,920,176	8,830,581	1,089,595	

支出の部 (単位: 円)					支出の部 (単位: 円)				
科 目	予算額	決算額	増減額	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
会 議 費	220,000	195,281	24,719	役員会, 慰霊法要等	会 議 費	200,000	220,000	- 20,000	役員会, 慰霊法要等
総 会 費	350,000	324,581	25,419	運営費, 資料印刷代, 広告代等	総 会 費	350,000	350,000	0	運営費, 資料印刷代, 広告代, 等
旅 費	600,000	529,290	70,710	役員会, 役員出張旅費等	旅 費	550,000	600,000	- 50,000	役員会, 役員出張旅費等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与 (事務局長)	人 件 費	480,000	480,000	0	給与 (事務局長)
需 要 費	100,000	80,218	19,782	新聞代, 事務用品等	需 要 費	100,000	100,000	0	新聞代, 事務用品等
備 品 費	0	0	0		備 品 費	0	0	0	
役 務 費	280,000	295,111	- 15,111	電話料, 郵送料, LCV - NET 接続料, 他	役 務 費	280,000	280,000	0	電話料, 郵送料, LCV - NET 接続料, 他
慶 弔 費	850,000	850,475	- 475	支部総会祝儀, 餞別, 弔電, 広告代, 他	慶 弔 費	850,000	850,000	0	支部総会祝儀, 餞別, 弔電, 広告代, 他
記 念 品 費	180,000	169,400	10,600	卒業生への記念品代	記 念 品 費	180,000	180,000	0	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報 (190 万円), 清陵会 (200 万円), 会館維持 (5 万円)	繰 出 金	4,450,000	3,950,000	500,000	会報 (190 万円), 清陵会 (200 万円), 会館維持 (5 万円)
基金繰出金	0	0	0		基金繰出金	0	0	0	
雑 費	0	0	0		雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,820,581	1,624,939	195,642		予 備 費	2,480,176	1,820,581	659,595	
合 計	8,830,581	8,499,295	331,286		合 計	9,920,176	8,830,581	1,089,595	

諏訪清陵高校同窓会「基本財産」目録

基本財産 54,000,000 円

(内訳) 定期預金 諏訪信用金庫 44,000,000 円
八十二銀行 10,000,000 円

やすしとぬくもりのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壮一 (51回)
社 長 室 長 山崎 澤子 (56回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り 3-3-10 TEL0266 (58) 8000

平成 21 年度
「同窓会報」特別会計決算報告
(平成 21 年 4 月 1 日から 22 年 3 月 31 日)

収 入 額 2,564,670 円
(繰越金, 一般会計より繰入金, 広告収入等)

支 出 額 2,239,293 円
(会報 35 号編集印刷費, 発送費)

差引残高 325,377 円
(平成 22 年度へ繰越)

平成 21 年度
「清陵会館」維持会計決算報告
(平成 21 年 4 月 1 日から 22 年 3 月 31 日)

収 入 額 1,017,632 円 (繰越金, 繰入金, 利息)

支 出 額 0 円

差引残高 1,017,632 円 (平成 22 年度へ繰越)

清陵高校クラブ後援会 (3 者) 会計報告 (PTA・同窓会・学友会)

平成 9 年度に PTA・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ後援会」も発足以来 13 年を経過致しました。同窓会からは会員各位のご理解を得るなか、この 13 年間に 3,373 万円の援助を頂いてまいりました。

平成 21 年度は、延べ 167 の大会に 2,400 余名の生徒が「清陵」の名を背負って参加し、頑張ってまいりました。中でも端艇部は滋賀県で行われたインターハイで男子クオドル 5 位入賞、イングリッシュ部は埼玉県で行われた全国高校ディベート大会で 5 位入賞、古典ギター部およびかるた部も全国大会に出場するなど、荣誉ある成績をおさめることができました。その他各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施致しました。

なお、すでに各クラブ・同好会とも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引き続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(学校事務長・山崎典英)

平成 21 年度 クラブ活動後援会 (3 者) 会計決算

収入総額	10,657,411 円
支出総額	10,417,886 円
差引残高	239,525 円

収入の部 (単位: 円)

科 目	予算額	収入済額	差引増減
繰 入 金	8,600,000	8,600,000	0
県 費 等 補 助 金	404,000	1,061,300	- 657,300
雑 収 入	355	466	- 111
繰 越 金	995,645	995,645	0
合 計	10,000,000	10,657,411	- 657,411

支出の部 (単位: 円)

科 目	予算額	支出済額	比較増減
生 徒 遠 征 費	6,530,000	7,135,181	- 605,181
大 会 参 加 費	1,700,000	1,773,910	- 73,910
登 録 料	800,000	713,645	86,355
施 設 使 用 料	900,000	795,150	104,850
事 務 費	20,000	0	20,000
予 備 費	50,000	0	50,000
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	10,417,886	- 417,886

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のお願い

平成 9 年度の定期総会において「母校の全てのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足致しました (詳細は平成 9 年度発行の『会報』第 23 号参照)。

平成 9 年度からの 5 年間 (第 1 次) に 1,730 名から協力 (入会) を頂き、また、引き続き平成 14 年度からの 5 年間 (第 2 次) でも 1,701 名の協力を頂いてまいりました。この結果、平成 18 年までの 10 年間で 2,496 万円を母校へ贈ることができました。継続して平成 19 年度から第 3 次・5 年間に入っており、19 年度に 302 万円、20 年度に 295 万円、21 年度には 280 万円を母校へ贈ってきております。ご協力ありがとうございました。

毎年この『会報』発送の折に会費 (5 年分・10,000 円) のご協力を頂きたく「振込取扱票 (郵便振替用紙)」を同封しておりますが、残念ながら最近の入会者が減少の傾向にあります。因みに、19 年度は 356 名、20 年度は 252 名、21 年度は 246 名でした。文武両道を掲げて活動している後輩の為に是非ともご協力を切にお願い致します。

ご送金方法

- ◇同封の郵便振替用紙でお願いします。(手数料無料)
- ◇ご都合で 5 年分一括でない場合は金額を訂正してお振り込みください。(1 年分でも結構です)
- ◇銀行振込の場合は下記口座へお願い致します。手数料はご負担頂ければ幸いです。

口座名 清陵クラブ活動同窓会後援会
八十二銀行諏訪支店 普通 689 - 629

諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944
※銀行振込の場合は差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてからお名前をご記入下さい。(例「77 セイリョウ タロウ」)

平成 21 年度
諏訪清陵高校クラブ活動
同窓会後援会会計決算報告

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

収入総額	6,703,889 円
支出総額	2,854,705 円
差引残高	3,849,184 円 (平成 22 年度へ繰越)

収入の部 (単位: 円)			支出の部 (単位: 円)		
科 目	収入済額	備考	科 目	支出済額	備考
繰 越 金	4,203,675	前年度より	拠 出 金	2,800,000	学校後援会へ
会 費	2,491,963	246 名	需 用 費	54,705	振替用紙印刷代
繰 入 金	0	定期預金取崩し			
雑 収 入	8,251	預金利息			
合 計	6,703,889		合 計	2,854,705	

諏訪清陵高校クラブ活動
同窓会後援会基金

(平成 22 年 4 月 2 日現在・単位: 円)

種 類	預入先	金 額	利率	期間	満期日
期日指定定期	諏訪信用金庫	3,000,000	0.070%	1 年	H23.4.4
〃	〃	1,400,000	〃	〃	〃
合 計		4,400,000			

クラブ後援会会員芳名(敬称略)

以下の名簿は平成22年4月1日現在、クラブ活動後援会会費期限5年分をお振込みくださっている方々です。従って、平成17年度中に振込まれた方は、平成21年3月31日を以て5年間の会費が終了致しましたので、この名簿にお名前は記載されておりません。ぜひ新たに入会(お振込み)をお願い致します。

29 今井 功	40 林 卓郎	45 今井浩一郎	48 小池 岩雄	50 小坂 幸三	52 浦野 実	56 石森美代子	58 瀬戸 徳一	60 一ノ瀬五十志
31 林 六美	41 伊藤 博之	45 松岡 武文	48 小島 宏	50 柿澤 重喜	52 大和 節雄	56 大橋 博康	58 千代 務	60 菊池 功
31 宮坂 水穂	41 小口 俊弘	45 久保 光章	48 鳥羽 良也	50 片岡 一郎	52 小野 泰策	56 山崎 淳子	58 高橋 勇夫	60 今井 将隆
32 久保田 力	41 小口 正信	45 小泉 善一	48 永由 利弘	50 小池 脩司	52 笠原 邦三	56 渡部 清	58 今井 稔子	60 植松 峯夫
33 伊藤 文夫	41 小池 正衛	45 小平 恭	48 林 五平	50 小泉 作一	52 金松 正也	57 天野 丈久	58 茅野 充男	60 小川 浩史
35 大宮 一朗	41 小松 正弘	45 原 義郎	48 小池 賢	50 後藤 英佑	52 金子 信也	57 池田 昭恩	58 中澤 正衛	60 河西 千広
35 小林繪詩郎	41 小松 益美	45 高木 満	48 藤森 正好	50 駒井 進	52 北原 幹雄	57 萩野 浩	58 鈴木由美子	60 笠原 三蔵
35 小松 清	41 武田 博夫	45 林 淳平	48 松沢 留一	50 小松 横芳	52 小松 寛光	57 小口 智弘	58 名取 次夫	60 笠原 文武
35 中山 久吉	41 中村 守利	45 宮坂 文雄	48 平島 昭	50 五味 郁夫	52 篠原 剛	57 小池 定雄	58 濱 實	60 鎌倉 剛一
35 増沢 一男	41 林 慧	45 村木 孝平	48 両角 喜作	50 五味 隆俊	52 清水 忠義	57 小林 晋作	58 林 秀剛	60 加室 昂
35 宮坂 廣彦	41 百瀬 貞夫	45 矢島 利一	48 両角 光一	50 白川 栄一	52 関 裕安	57 小林 俊光	58 齋藤 寛	60 北原 本夫
35 矢崎 秀彦	41 増澤 康正	45 今野 広久	48 矢崎 文彦	50 鈴木 孝	52 田上 明	57 小林 浩	58 林 良一	60 久保田一夫
35 山田 六一	41 宮沢 七郎	46 齊木 堯	48 山岡 正邦	50 小林 重治	52 田中 正利	57 小林 宏	58 原田 真弓	60 小平 徳次
35 渡辺 長雄	41 柳澤 和夫	46 小川 善弘	48 山崎 正彦	50 武井 秀夫	52 茅野 實	57 小林 正春	58 樋口 敏夫	60 小平 宏
36 石壁正一郎	41 柳澤 武康	46 小口 久市	48 山村 泰彦	50 竹村 一司	52 友野 弘	57 五味 瑞治	58 古畑 喜博	60 小林 智昭
36 窪田十才徳	41 柳澤 藤夫	46 帯川 誠	48 渡辺 誠	50 田中喜代志	52 名取 雄祐	57 薩摩林真美	58 眞下 テル	60 小林 光
36 熊谷 久志	42 飯田 幹徳	46 河西 利男	49 会津 洋	50 根橋 郁雄	52 波多 秀夫	57 篠原 康夫	58 御園 廣實	60 小松 寛之
36 中村 清寿	42 岩波 松美	46 北澤 興司	49 矢ヶ崎英一	50 浜 邦夫	52 浜 一栄	57 清水 澄	58 宮坂 栄治	60 五味 章次
36 原 孝	42 小口 國夫	46 五味 昭二	49 伊藤 清治	50 宮坂 弘三	52 林 尚孝	57 高橋 長幹	58 宮坂 健二	60 近藤 信也
36 古舘 良平	42 錦見 高弘	46 小川 久平	49 上原 秀秋	50 藤森 睦美	52 藤森 三朗	57 立石 邦久	58 矢嶋 聰	60 佐藤 宏
36 矢崎 碩一	42 小口 千晴	46 齋藤 清一	49 牛山 精一	50 松崎 元博	52 藤森 昇	57 田中 高	58 矢島 秀一	60 篠原 健
37 後町 良定	42 菊田 貞衛	46 関 忠雄	49 小沢 裕	50 宮坂 哲夫	52 堀田 満	57 茅野 嘉利	58 山口 宗彦	60 関 滋
37 清水 泰三	42 工藤 健	46 滝沢 潔	49 帯川 淳志	50 宮坂 芳久	52 三枝 健男	57 宮澤 富夫	58 山田 照雄	60 高木 祥勝
37 武井 清吉	42 小池 正雄	46 武井 厚隆	49 笠原 俊彦	50 宮坂 力夫	52 米沢 時雄	57 佐野川日出雄	59 赤羽 義章	60 田口 稔
37 田中 克郎	42 小平 祐	46 武井 敏男	49 片瀬 豊	50 三輪 尚文	52 米澤 朝宗	57 西山 郁夫	59 朝倉 周一	60 田中 拓二
37 蛭川 修司	42 小松 眞一	46 田中一太郎	49 木見尻康彦	50 村上 賢次	55 小林 誠三	57 浜 有	59 飯田 力也	60 長田 敦夫
37 藤森 要吉	42 小松 廣	46 古屋 一男	49 久保田 貢	50 柳澤 惟一	55 牛山 一	57 日野 喜之	59 飯田 鴻介	60 名取 正富
37 宮沢 康夫	42 片桐 好	46 増澤喜美夫	49 小池 久	50 八幡 等	55 太田 弘道	57 藤田 吉蔵	59 伊藤 忠三	60 野竹 虎夫
37 矢島 善一	42 飯沢 平臣	46 宮坂 義三	49 後藤 隆	50 吉田 守	55 上條 晋雄	57 牧 庄一	59 上原 寿雄	60 長谷川修平
38 伊東 義人	42 宮坂 正一	46 矢島 昭	49 小松 敏	51 今井 公彦	55 小松 清一	57 溝口 藤雄	59 牛山 孝	60 浜 勝彦
38 北原 文雄	42 宮坂 芳行	47 浅川 孝典	49 斉藤 文夫	51 今井 好昭	56 秋月 一典	57 宮澤 功吉	59 小川 勝嗣	60 原田俊次郎
38 小林 克己	42 両角 節	47 有賀 公雄	49 白鳥 貞幸	51 太田 信男	56 飯田 有年	57 矢嶋 民雄	59 小口 剛	60 平澤 澄雄
38 小松 雅雄	42 山田 保	47 小澤昭一朗	49 代田 繁夫	51 小口 一郎	56 伊藤 安幸	57 横田 健次	59 小澤 廣利	60 平林 國男
38 立木 正純	42 山田 藤雄	47 井上 哲男	49 鈴木 邦彦	51 金松 直也	56 今井 常豪	57 赤羽 正臣	59 加賀美久高	60 藤森 和弘
38 藤森 千史	43 青沼 武樹	47 今井 一之	49 高橋 健	51 金子 隆一	56 小川 明人	58 河野瑤智子	59 小岩井邦弘	60 藤森 弘
38 前田時太郎	43 栗林 正賀	47 今井 健彦	49 土田健次郎	51 熊谷 和雄	56 笹岡 修一	58 有賀 四郎	59 林 芳江	60 堀 晃
38 矢ヶ崎孝雄	43 小松 昌平	47 萩野 昭	49 土橋 達也	51 小池 春次	56 濱 和彦	58 飯田 節夫	59 小林 邦明	60 増沢 豊久
39 井上 村吉	43 志賀 平昇	47 久保龍太郎	49 松木 庄郎	51 小松 製付	56 小口 勝次	58 石城 浩吉	59 小松 巖	60 松澤 功
39 永井 俊夫	43 杉村 清人	47 倉島 武男	49 林 厚彦	51 小松 良樹	56 小坂 弘	58 伊藤 彰彦	59 古村 憲資	60 丸茂 敬昌
39 大宮 直治	43 前島 甲平	47 小平 信一	49 林 忠男	51 佐藤 光義	56 河西 啓二	58 伊藤 弘	59 白倉 徹哉	60 丸山 純夫
39 栗林 松治	43 増沢 清水	47 小林 秀春	49 平出 隆男	51 進藤 八郎	56 神山 幸雄	58 伊藤 隆一	59 城取 俊昭	60 宮坂 茂作
39 小松 政重	44 伊藤 裕人	47 小林 正樹	49 福島 太郎	51 関 光雄	56 北原 良郷	58 内山 幸雄	59 千野 光久	60 宮坂 博己
39 清水 方平	44 江口 秀男	47 小松 誠	49 宮坂 悦司	51 内藤 昌	56 小泉 幸雄	58 大西 暉三	59 内藤 好昭	60 小平 利昌
39 清水 康弘	44 小口 哲男	47 竹村 健一	49 宮坂 敏彦	51 平出 進	56 小宮山啓一朗	58 小口 正	59 中島 伸一	60 宮澤 政文
39 茅野 和雄	44 片倉 久夫	47 濱 哲郎	49 宮坂 久臣	51 藤原 健一	56 酒井 利男	58 小野 寿男	59 永田 弘幸	60 矢崎清太郎
39 平林 治吉	44 河西 勝	47 原 尚道	49 向山 幸男	51 藤森 定義	56 三溝 善一	58 笠原 忠夫	59 津金 勝巳	60 柳沢 忠志
39 藤森 久雄	44 小泉 孝之	47 平出 康彦	49 両角 俊美	51 藤森 昭八	56 武居 浩明	58 上條 衛	59 藤原 康二	60 深見 靖正
39 細田 圭一	44 原 敏	47 松田 庸夫	49 山岡 利行	51 堀内 昭八	56 武居 浩明	58 木下 博介	59 藤森 忠治	60 弓削 裕和
39 宮坂 英夫	44 原 幸宜	47 翠川 昭久	49 高田利之助	51 三村 俊二	56 藤井 真之	58 熊谷 致	59 長瀬 价美	60 横内 仁
39 宮澤 千明	44 高木 章雄	47 宮坂 和宏	49 山田 早苗	51 宮坂 祐次	56 保科 正明	58 伯満 伯満	59 細野 祐	60 吉山 善博
40 伊藤 豊次	44 土田 眞	47 宮坂 正昭	49 山田 佳也	51 矢崎 斉男	56 堀田 俊夫	58 小林 常見	59 松沢 亮	61 赤沼 洋
40 岩波 重吉	44 新村 恒雄	47 矢島 廣人	49 依田 武	51 柳平 直明	56 堀川 尚武	58 小林 英雄	59 松下 勲	61 伊東 章宏
40 小口 多聞	44 保延 道夫	48 伊藤 順一	50 秋山 宣夫	51 山川 英一	56 松見 佳樹	58 小林 秀文	59 宮坂 仁	61 上田 進康
40 加々見一郎	44 藤森 茂一	48 伊藤 芳明	50 天野 力夫	52 鮎沢 啓次郎	56 宮下 敬三	58 小松 昭	59 矢崎 邦彦	61 牛山 俊
40 花岡 三郎	44 丸山 数馬	48 上原 博男	50 伊藤 友彦	52 今井 文人	56 宮本 卷	58 小松 敏郎	59 矢崎 豊国	61 太田 龍朗
40 平沢 茂満	44 宮坂 武夫	48 小口 一	50 岩田 昌久	52 牛尼 俊樹	56 望月 均	58 小松 英夫	59 山崎 雄二	61 小口 智也
40 宮坂 宥勝	44 両角 音平	48 金井 恒巳	50 岩波 貞夫	52 牛山 剛	56 守矢 哲	58 五味 公夫	59 中山 篤	61 小澤 興
40 矢沢 邦市	45 柳澤 英次	48 木下 芳英	50 牛山 博美	52 牛山 房弘	56 淵上 良子	58 繁宮 伯行	60 赤羽 英勝	61 小林 長吉



みんなのために、ひとりのために

1200年の歴史を持つ“おんばしら”。

熱くひとつにまとまる諏訪の人々。そんな町、そんな人々を応援します。

—諏訪地域に本店のある地元の金融機関—

諏訪信用金庫

理事長 花岡 証好(68回)

〒394-8611 長野県岡谷市郷田2丁目1番8号 TEL0266-23-4567 FAX0266-23-8044 <http://www.suwashinkin.co.jp>

61 小松 晃	63 松木 義文	66 藤森 英和	69 渡辺 泰弘	73 堀田 文昭	77 渡辺 恵祐	84 赤羽 武弘	91 藤森 和良	106 藤森 智矢
61 薩摩林 正	63 丸山 佳広	66 藤森 元規	70 山口 幸一	73 山田 雄一	78 大蔵 宏基	84 牛山 幸彦	91 藤森 完一	106 渡邊 希
61 篠崎 知明	63 蜜澤 裕二	66 堀川 安久	70 小口 卓男	74 岩波 豊明	78 小口 健	84 小口 理子	92 今井 修	107 小口 真太郎
61 下枝 晴彦	63 宮坂 尚利	66 松田 洋	70 倉田 文秋	74 岩本 敏男	78 釜洞 修一	84 小池久美子	92 笠原 健一	107 川邊 美奈
61 鮎柄 光則	63 亙理美代子	66 丸茂 雅弘	70 桑沢 隆文	74 大滝 精一	78 桑原 誠	84 長尾 潤子	92 小竹 直子	107 武居 美緒
61 瀬戸 明彦	63 山田 善彦	66 岩坂 秀成	70 小池五十六	74 金井 良一	78 小松 一俊	84 武井 洋一	92 内藤 真実	107 花岡 有香
61 高橋 道郎	63 吉田 紘	66 宮坂 勝之	70 小林 和男	74 小池 一秀	78 南保 勝美	84 立木 繁	92 新村 克英	107 溝口 真
61 土橋 勉	63 米山 勉男	66 宮澤 正幸	70 五味知佳士	74 小池 力	78 宮原 佳彦	84 田中 麻恵	92 矢島 隆	107 宮坂 勝彦
61 寺島 健司	64 鮎沢 宏威	66 米窪 修明	70 齊藤 憲一	74 五味 克成	79 市瀬 章	84 西川 俊夫	93 五味 聖	107 吉澤 梓
61 久保田 宏	64 北原 良樹	66 飯沢 信次	70 佐久 信雄	74 杉山 宏宏	79 伊藤 健紀	84 原藤 健紀	93 城取 英紀	108 梅澤 宏企
61 中村 隆一	64 武井 省吾	67 笹岡 仟治	70 渋谷 康海	74 土橋 英一	79 今井 博一	84 藤森 弘	93 新村 ゆかり	108 高月 昂
61 野澤彰治郎	64 海野光三郎	67 武居 哲彦	70 清水 英俊	74 中山 夏樹	79 岩波金太郎	84 古舘千真規	94 小口 誠司	108 小澤 駿
61 早川 次彦	64 小口 博義	67 関 敦子	70 進藤 政臣	74 松縄 茂	79 小口 高弘	84 細川 洋一	94 金井 かよ	108 島田 実幸
61 平野 国政	64 小澤 俊	67 岩間大和子	70 馬淵泰太郎	74 三井 常夫	79 小口 裕行	84 宮坂 明史	94 北条 浩之	108 津金みほろ
61 堀川喜代太郎	64 木川 史弘	67 中島 永人	70 三村 博一	74 矢崎 智義	79 小口 弘昌	84 矢島 隆美	95 小松 貴弘	108 中村 好絵
61 丸茂 和夫	64 小泉 健二	67 根橋 房司	70 藤森 行雄	74 柳沢 秀生	79 河西 一彦	84 八幡 純治	95 高山 美歩	108 早川 藤子
61 宮澤 三郎	64 五味 勝	67 林 武昭	70 矢島 芳明	75 伊藤 進	79 河辺 栄一	84 吉田 敏一	95 中島 規貴	108 平出恵利華
61 宮沢 健	64 清水 強	67 前島 善文	70 山田 厚	75 伊藤 隆	79 寺沢 隆	85 伊藤 孝一	95 御園健一郎	108 宮澤まどか
61 三輪 昭裕	64 武井 直人	67 三浦 久	71 奥山 秀人	75 牛山 重幸	79 小林 秀年	85 河西 孝信	95 山本 瑞己	108 吉川 岳史
61 高見澤忠明	64 堀内 龍也	67 三井 敏彦	71 河西 裕	75 武居 厚郎	79 五味 稔典	85 五味 高義	96 上原 俊樹	109 安藤ゆずる
61 横川 紀夫	64 丸茂 峰宏	67 守矢 早苗	71 加藤 博明	75 土橋 和彦	79 高橋 則広	85 下平香代子	96 五味知亜樹	109 岩波 薫
62 秋田 英一	64 宮澤 玄治	67 矢崎 太造	71 小林 精治	75 徳嵩 昇一	79 寺沢 茂	85 永田 直也	96 平味 弘行	109 牛山さゆり
62 朝比奈茂吉	64 山崎 智仁	67 矢萩 哲也	71 小林 秀樹	75 浜 興治	79 新村 融一	85 立花 美香	96 田中 雄一	109 川邊 直紀
62 大西 高司	64 山田 勝俊	67 山本 金男	71 小松 公一	75 藤森 武典	79 原 薫	85 平出 健一	96 中村 恭史	109 小池 慎
62 今井 保寿	64 山田 巻義	68 伊藤 重利	71 磯野 康子	75 古舘 猛	79 松沢 公夫	85 藤澤 和利	96 浜 真由美	109 小松 良大
62 金子 浩之	64 渡辺 紹司	68 伊藤 博	71 近藤 知雄	75 細田 直史	79 山田 寛	86 今井 昭徳	96 小坂 一也	109 佐藤絵里奈
62 小松 道俊	65 池田 昌純	68 牛山 和義	71 竹内 一	75 宮坂 通彦	80 金井真一郎	86 牛山 英俊	96 吉江 冬彦	109 武井 洋史
62 塩澤 瑞人	65 広瀬 睦子	68 大森 尚人	71 田畑久司	75 宮下 和彦	80 武居 光雄	86 宮下 真美	97 今井 英生	109 土橋 悟
62 清水 和親	65 山崎 幸子	68 小沢 智惟	71 萩原 啓一	76 朝倉 義信	80 辻 洋	86 青木 裕子	97 小穴 昌志	109 原 耕平
62 瀧澤 盛夫	65 伊藤 速一	68 小沢 康	71 金子 芳治	76 須田 裕子	80 土橋 正明	86 武田 正利	97 小坂 秀文	109 原田綾希子
62 竹内 洋平	65 伊藤 豊一	68 春日 昌明	71 三澤 寿喜	76 石井 和夫	80 原田 信	86 辻 清隆	97 新村 好	109 吹附 綾乃
62 田中 明雄	65 岡村 昭治	68 小平 貢	71 宮坂 敏郎	76 稲葉利恵子	80 藤森 民雄	86 中島 剛	98 上野 朋彦	109 藤澤 秀
62 中島 澄雄	65 笠原 重治	68 小林 宜宣	71 宮坂 久夫	76 小口 直彦	80 松田 正之	86 高橋みゆき	98 中島 克夫	109 山崎 将一
62 長田 宏子	65 木村 博	68 武井 春義	71 宮坂 英敏	76 笠原 尚	80 溝口 到	87 井出 健次	98 矢沢 恵一	110 相原 龍
62 中村 俊明	65 小林 俊徳	68 茅野 哲一	71 宮下 信市	76 春日 一夫	80 宮坂 哲雄	87 土橋 智也	98 山本 睦	110 青木 勇太
62 濱 武秀	65 小林 三男	68 藤森 富雄	71 横内 保美	76 小池 明朗	80 百瀬 淳一	87 藤森 伸也	100 五味 泰史	110 伊藤 誠悟
62 演 弘章	65 五味 正明	68 宮坂 満雄	72 新井 滋平	76 小池 憲良	80 両角 雅志	87 宮坂 玲子	100 根本 和彦	110 伊藤 誠悟
62 林 靖高	65 田久保 昇	68 宮原 友保	72 飯澤 文夫	76 坂井 由美	81 山本 留美	87 柳澤 泰	100 林 敬祐	110 片倉 正浩
62 平林 哲夫	65 田中 勝一	68 矢崎 和広	72 植松 昌弘	76 田中 幸一	81 牛山 知明	88 小川 幸司	101 牛山 育子	110 倉田 雅志
62 藤森 郁男	65 田中 健雄	69 飯塚 敏彦	72 岡村 昇	76 中島 真一	81 田村まゆみ	88 倉科 和則	101 竹村 玲子	110 小松 昌平
62 堀 浩泰	65 中野 明	69 武川 昌次	72 河西 健雄	76 野口 幹夫	81 笠原 直子	88 桑沢 和伸	101 吉江 夏子	110 小松 優規
62 宮坂 博通	65 中村 國彦	69 上田 典胤	72 笠原 初雄	76 花岡 博茂	81 田中 輝明	88 増澤 浩一	102 笠原 茂佳	110 清水 啓一
62 両角 晃一	65 名取 武一	69 笠島 信明	72 笠原 勇二	76 花岡 正明	81 橋爪 俊明	89 今井 淳	102 中根 伸昌	110 白尾 貴司
62 矢島 貢	65 西沢 巻夫	69 松澤 睦司	72 鎌倉 明徳	76 林 友則	82 伊藤 正三	89 植松 秀生	102 松木 義成	110 田中 一平
62 吉田 信行	65 野口 健一	69 古原 正之	72 熊崎 秀和	76 細川 信明	82 内山 茂晴	89 岩原 直子	103 折井 友彦	110 田中 辰行
63 荒木 信行	65 浜 一吉	69 両角 雄一	72 桑沢 元孝	76 松田 昌幸	82 河西 仁	89 関 淳一	103 越田 真二	110 藤森 章浩
63 有賀 一夫	65 浜 裕幸	69 酒井 和幸	72 竹村 文男	76 矢崎 敏臣	82 那須野秀二	89 宮坂 賢一	103 泉水 海	110 矢島 健志
63 今井 洋一	65 原 英充	69 篠崎 富男	72 永田 修平	77 小口 武男	82 古屋 了	89 両角 康典	103 竹村 信彦	110 矢島 健思
63 岩間 建亜	65 藤森 邦秀	69 高山 猛英	72 名取 重治	77 長田 正名	82 藤森真佐子	90 新井 直子	103 山田 怜史	111 今井理実華
63 遠藤 博万	65 細田 正昭	69 武村 光男	72 根橋 清	77 春日 敏彦	82 増澤 宏昭	90 池上 明雄	103 吉江 秋彦	111 小池ひかり
63 小澤 容	65 溝口 忠昭	69 津金 正典	72 野口 俊樹	77 北原 修	82 宮坂 誠	90 小河原一浩	104 有賀 大峰	111 小松 知世
63 笠原 政樹	65 三井 嘉啓	69 花岡 清二	72 山田多美枝	77 小林 祥一	82 村松 健敏	90 小河原綾子	104 園田 裕美	111 小松麻裕子
63 金井 英雄	65 宮沢 健一	69 花岡 正	72 御子柴 均	77 小林 初彦	82 武井紀代美	90 高橋 寿明	105 小口佳納子	111 武居 雅樹
63 鎌倉 了	65 柳沢 共榮	69 浜 和雄	73 浅川 辰司	77 小松 教幸	82 山崎 健二	90 西瀬 祥一	105 武居 悠輔	111 横内 健悟
63 河合 信也	66 河合 三彦	69 比田井和子	73 遠藤 進	77 小松 正彦	83 新澤みどり	90 濱 孝章	105 茅野 大祐	112 市村 知美
63 小平 協	66 北原 東一	69 福島 英雄	73 北川 和彦	77 武居 丈二	83 岩本 和久	90 古畑 透	105 土橋 嵩史	112 佐々木統一
63 高木 鐵也	66 北澤 智己	69 三井 清嗣	73 小林 正和	77 土橋 一郎	83 菊池 俊樹	90 宮坂実木子	105 中村 貴帆	112 竹松 俊彦
63 高本 義雄	66 小平 正八	69 宮坂 本勇	73 鳥羽 研二	77 林 理之	83 五味 弘昌	90 百瀬 達雄	105 峰谷 匠子	112 藤森 夏幸
63 竹本 正行	66 岩波 将武	69 宮坂 幸芳	73 濱 正也	77 金子 恵子	83 関 聖	90 矢澤 勲	105 吉江 春子	112 山岡あやの
63 田中 祐昌	66 常田 信行	69 宮原 栄一	73 林 重男	77 樋口 尚宏	83 田中 妙	91 伊藤 大助	106 笠原 鏡平	121 諏訪水交会
63 鶴巻 健彦	66 徳永 昭輝	69 矢島 正昭	73 原 大	77 水戸川博明	83 伏見 升成	91 上原 綾子	106 小松 嵩宙	
63 中村 好邦	66 中村 俊夫	69 柳平 三雄	73 平塚 唯史	77 宮坂 直孝	83 藤森 京子	91 北沢 清二	106 清水 奈緒	
63 浜 弘毅	66 原 護	69 山崎 卓	73 松木 敏博	77 長田美保子	83 藤森 修一	91 Karicek さやか	106 武井 友史	
63 牧 成治	66 樋口 宗司	69 吉江 春人	73 宮坂 和生	77 矢崎 秀一	83 矢嶋 哲	91 五郎丸みどり	106 中村英理子	

人と自然を大切に、超精密に挑戦する

超精密への挑戦
Takashima

高島産業株式会社

代表取締役社長 小口 武男 (77回)
監査役 小口 信治 (73回)
監査役 小松 宏光 (77回)

本社工場 ☎ 391-0012 茅野市金沢5695-6 ☎ (0266) 52-3311 (代表)
諏訪工場 ☎ 392-0007 諏訪市清水2-1-21 ☎ (0266) 52-3470

URL: <http://www.takashima.co.jp>

昭和シェル石油特約店



株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎ 本店 (0120) 210-613

代表取締役会長 細川 昭八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩二 (86回)

平成21年度 定期総会の記

朝倉義信 (76 回)

第1部の定期総会は、恒例に則り女性司会者として76回生の矢島理恵子さんが務めました。昨年後半から深刻な問題となっている世界経済の不況の影響からか、例年より前売り券の売れ行きがよくなく、当日、どれだけ多くの会員が参加してくれるか心配していました。

開会にあたり茅野副会長から「同窓会は、ずっと膨らんでいくだけでなく、時には萎むことも大事である」とフォローをいただいたように、残念ながら席の3分の2も埋まらない出席者の状態で定期総会が始まりました。

物故会員への黙祷をささげた後、松下同窓会長の挨拶のなかで、同窓会報をはじめ今回の同窓会の準備に対し、我々76回生へのねぎらいの言葉を頂戴しました。来賓として篠原校長先生よりご挨拶をいただいた後、予定した議事はすべて承認されました。

そして77回生代表幹事、長田君の熱い意志表明によって第1部が締められました。

例年より少ない出席者で定期総会は開会されましたが、第1部が終了し、15分の休憩をはさみ、第2部の小池康博君の講演が始まろうとする時には沢山の同窓会員が押し寄せ、追加の椅子を沢山持ち込んだにもかかわらず、会場からあふれんばかりの聴講者となりました。私の記憶のなかでは最高の聴講者数でした。

小池君の講演は「私にとってのファンダメンタルズ」というタイトルで、自身の光ファイバーの研究と、それを支え続けた清陵の精神について振り返りました。「辛い時も、それを越える出口は基本（ファンダメンタルズ）にある」という、彼の清陵時代からの精神は、多くの参加者に感動を与えたと思っています。また、彼の「自分で計算したアインシュタインの理論値が、挫折感や様々な誘いを断る勇気を与えてくれた」という言葉は、まさに清陵魂ではないでしょうか。

第3部の懇親会は、総会運営部会長の宮坂潤一君の司会で行われました。会場には300人近い席を用意しましたが、予想以上の参加人数となり、急遽、会場外のホールにも席を用意しました。宮坂久臣顧問に乾杯の音頭をとっていただいた後、10カ月にわたって練習した幻のおやじバンドの演奏が行われ、大音響に多くの先輩方から苦情も寄せられましたが、各々のテーブルでは話が弾み、大盛況でした。大音響で申し訳ございませんでしたが、我々76回生にとっては、37年前の高校最後の清陵祭を思い出させてくれた幻のおやじバンドでした。

恒例の校歌斉唱は、次期幹事の77回生諸君が壇上に上がり、大いに盛り上げてくれました。来年は御柱年であるということから、73回生の宮坂和生さんに友情出演いただき、木遣りで盛り上げてもらい、最後は林前同窓会長による万歳三唱で閉会となりました。

最後となりましたが、多くの同窓会員のみなさんにご出席をいただき、盛会のうちに終了できたことに対し、当番幹事として心より御礼申し上げます。

コソボフィルハーモニー交響楽団来日!!

柳澤寿男 (93 回)

(コソボフィルハーモニー交響楽団首席指揮者)

日本とは縁の遠いバルカン半島。かつてチトーが治めた旧ユーゴは多民族、多宗教の混在した奇跡的な国であったと思う。1984年2月にはサラエボ冬季オリンピックが行われたが、チトーの死後、旧ユーゴは多くの戦争を繰り返して解体。ボスニア紛争は20万人という歴史的な犠牲者を出し、ともにオリンピックを開催してきた者たちも互いに殺し合うこととなり、オリンピック競技場は墓地となってしまった。

1996年から始まるコソボ紛争以前、コソボの首都プリシュティナにあった放送交響楽団はセルビア人、アルバニア人、マケドニア人、ボスニア人などの混在する多民族オーケストラであった。戦争は音楽をも解体し、楽団員は難民となり、あるものはバスルームに潜み個人練習を続け、あるものは一家車で隣国へ向かい、国境で車内一週間を明かした。水もトイレもない。コソボ紛争は1999年、米国ビル・クリントン政権下、NATOの空爆により終戦となった。

その後2000年に13人のアルバニア人弦楽奏者がコソボフィルハーモニー交響楽団を設立。戦後、国連統治下での活動のなか、2007年日本人指揮者を迎え入れてくれた。コソボフィルの楽団員は少しずつ増え、現在の活動に至っているが、残念ながら戦前のように多民族によるオーケストラにはなっていない。しかし、戦後復興のなか、コソボフィルとともに文明開化の足音は確実に大きくなっている。

このたび日本と国交樹立記念の文化交流第1号として日本全国4か所で行う演奏会の初日に岡谷市のカノラホールで地元合唱団との文化交流演奏会を予定している。ナビゲーターには女優石田ひかり氏を迎えてのコンサート。ひとりでも多くの方々に日本初となる日本コソボの文化交流の歴史的瞬間を見届けていただきたく願っている。

■諏訪公演のお知らせ

平成22年7月17日(土) 14:00 開演

岡谷市文化会館カノラホールにて

曲 目:「モーツァルトのレクイエム」ほか

指 揮: 柳澤寿男/オーケストラ: コソボフィルハーモニー交響楽団+日本人音楽家

ソプラノ: 大岩千穂、アルト: 竹本節子、テノール: 大野光彦、バリトン: 稲垣俊也

合唱団: コソボフィルと唱う諏訪特別合唱団



学年会短信

回	名称	活動内容・幹事短信
45		昨年の同窓会定期総会（6月27日・ホテル紅や）には、宮坂裕君、藤森清司君、関弥之助君、小松一弘が出席。今回も諏訪湖を眺めながら青春時代を語り合った。また、同窓会諏訪支部総会（11月20日・成田屋）には、関弥之助君、小松直樹君、太田吉郎君、小松一弘が出席した。記念講演の「諏訪清陵高校第二校歌講義」の武居美博先生（77回）の講義内容に、われわれが若き日にともに歌った校歌の内容を改めて知り、ありがたかった。懇親会のあとの万歳の音頭は、出席者の中でわれわれが最古者ということで指名された。45回生の4人が壇上に登り、それぞれ自己紹介をし、一斉に万歳の音頭取りをした。さらにそのあと一本締めをやり、気合いを合わせた。昨年10月30日から高島公園での諏訪市秋香会第33回菊花展があった。その菊花展に小菅重男君の作品が最優等（諏訪市教育委員長賞）として展示されていた。私は、その作品から小菅君の活躍に感動し、うれしく思った。今年も、新年の長野日報ふるさとの賀状（1月1日付）に、東京の岩波一寛君からの「ふるさとを想うたより」があった。今年は御柱の年。45回生諸兄のご健勝を諏訪の地から祈っている。（幹事／小松一弘 TEL 0266 - 52 - 6911）
48		平成21年秋に3部同級会、22年1月に2部同級会が、また22年3月には同年会「東京白樺会」も開かれ、お互いの無事を確かめ合い、旧交をあたためました。平成22年度は、今のところ東京白樺会、2部・3部の会合が予定されておりますので、多数の皆様のご出席をお願いいたします。（幹事／木下芳英 TEL 0266 - 23 - 5704）
50	互励会	我々50回生は、昭和19年に諏訪中学に入学、昭和25年の清陵高校卒業までの6年間を清水ヶ丘で学びました。この間、4回ほどクラス替えがあったので、多くの友人が出来ました。皆が還暦を迎えたころ故宮坂亮一君が名づけた互励会（五〇会）の名のもとに記念文集を作ってより、東京はじめ遠方の会員と諏訪の会員は年に1回ずつ相互に訪問し合って旧交を温め文字どおり互いに励まし合ってきました。その我々も齢80となり、体力・体調も考えて、昨夏の会にて会の今後の新しい運営について協議・決定しました。今年は諏訪で特別な合同互励会を開催したいと考えています。多くの会員の参加をお願いします。諸君!! 元気で再会しましょう。（村上賢次記・幹事／宮坂芳久 TEL 0266 - 23 - 1176）
60	睦和会	昨年は予定どおり夏季の利尻、礼文島、富良野、層雲峡の旅（3泊4日）に36名、秋季東京睦和会総会を定番会場アルカディアを変えて、7部担当幹事で隅田川船下りに65名が参加し、盛会に終了。今年度は御柱祭のため秋11月に諏訪湖ホテルにて総会を開催予定。他はオプション企画で九州唐津くんち、長崎等を旅したい。（幹事／笠原文武 TEL 0266 - 53 - 0506）
61		・合同ゴルフコンペ：6月下旬（諏訪湖 CC） ・有志ゴルフコンペ：12月初旬（東京よみうり CC） ・納涼会：8月9日（諏訪市内） ・忘年会：12月23日（諏訪市内）。（幹事／土橋勉 TEL 0266 - 72 - 4840）
63		学年会を平成22年6月26日（土）の同窓会定期総会終了後、諏訪シティホテル成田屋（諏訪市大手1-14-15 TEL 0266 - 52 - 4500）にて開催します。大勢のご参加をお待ちいたします。（幹事／松木義文 TEL 0266 - 57 - 1177）
64	ザザムシ会	昨年、久しぶりにおこなわれた同年会には80名を超える多くの皆さまに、全国からお集まりいただき感激です。今回は70歳を迎える平成24年に計画しますので、ご期待ください。（幹事／小松修治 TEL 0266 - 52 - 3121）
65		今年の同年会の日程は次のとおり決定しました。小宮の御柱祭の関係で例年より時期を遅くしました。詳細については当番幹事で検討し後日連絡しますので、多数の参加をお待ちしています。・11月13（土）午後5時30分～、会場は検討中です。・昼間の第1部はゴルフ・ボート等を企画しています。・今年の当番幹事は4部です。また、諏訪地域在住の65回生有志が集まっての飲み会である「八日会」は、引き続き実施しています。毎月8日の午後6時30分から上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催していますので、気軽に参加してください。諏訪地域在住者以外でも諏訪へ来た際にはぜひ顔を出してください。（幹事／青木成雄 TEL 0266 - 53 - 0072）
68		68回生諸君！ 久しぶりに集い、第二の人生、大いに語り合おう！ 同窓会総会終了後、第10回学年会を開催します。皆様には、連絡できる学友と誘い合って、是非学年会にもご出席ください。・日時：6月26日（土）18時30分から・会場：紅蘭（諏訪市湖岸通り5-17-7・TEL 0266 - 58 - 1443）・会費：4,000円（当日会場で。総会出席者は2,000円）（幹事／伊藤一郎 TEL 090 - 7953 - 0665・0266 - 52 - 3769）
69	無垢の会	平成22年度のゴルフコンペ 第37回4月17日（土）・38回6月16日（水）・39回9月15日（水）・40回11月13日（土） 会場：フォレスト CC 三井の森（幹事／矢澤博 TEL 0266 - 72 - 8974・090 - 3312 - 1469）



胃腸科・消化器科・内科
 往診・訪問看護

医療法人

小口医院

院長 小口晋平（77回生）

★診療時間

平 日／午前 8：45～12：00
 ／午後 4：00～ 6：00
 土曜日／午前 8：45～12：00
 休診日／日曜日・祝日
 木曜午後、土曜午前

茅野市宮川茅野郵便局裏

☎0266-72-2619

メリーパーク

ガソリンスタンド

国道 20 号

至上諏訪→

ローソン

茅野郵便局

カネミツ

小口医院

がんばろう！

77 回生

茅 野 市

(有)チノモク

矢崎 裕嗣

諏訪市

山崎 義夫

岡 谷 市

サツマ外科医院

薩摩林恭子

辰野町

長田 光正

下諏訪町

盛栄堂小池薬局

小池 隆

箕輪町

宮下 和弘

富士見町

ミツワ西友薬局

古屋 真一

原 村

阿部 泰和

71		71 回生・アラ還、ジャス還の同志諸君へ!! 今年も同窓会総会に合せて恒例の学年会を開催します。6月26日午後7時から、いつもの割烹仙岳です。71 回生メーリングリスト又は渋江までご連絡を。(幹事/渋江利明 TEL 090 - 4751 - 9642)
92	九二会	H22 年 1 月、同期の西村淳一君 (4 部) が TV で IBM の CM (下記 URL) に登場しているのが同期生で話題に。本人確認すると、俳優さんのコストを削減するという施策の一環で依頼されたとか。その他、活躍中の同期生がいればご連絡下さい。http://www - 06.ibm.com/innovation/jp/smarterplanet/cloud/ (幹事/笠原健一 TEL 0266 - 53 - 5346)
93	きゅうさん 久 燦会	「清陵出てから 20 年…」同期会の開催通知★2009 年 8 月 14 (金)、ペルファイン (旧橋場会館) にて、「清陵出てから 20 年」の節目として、同期会を開催しました。卒業時に学級担任をしてくださった 6 名の先生方 (2 名欠席) と同期生 110 名ほどが集まり、大盛会となりました。お集まりいただいた皆様、本当にありがとうございます。会の中で、93 回生同期会の名称を 93 回生に、「久しくひかり輝く」という意を込めた字をあて、「久燦会」と名付けることで承認を得ました。ご出席いただけなかった皆様もご承知ください。「また、やるじゃあ!!」★柳澤寿男コンダクターを応援しよう 同期生でコンボフィルハーモニー交響楽団の指揮者をしている柳澤寿男氏が、日本・コソボ国交樹立記念演奏会諏訪公演を開催することになりました。7 月 17 日 (土) 14:00 ~ 岡谷市文化会館カノラホールにて、チケット 3000 円になります。同期生で応援していきましょう。(学年幹事/吉川豪 TEL 0266 - 78 - 1927, yskwgo@yahoo.co.jp)
94		「清陵出てから 20 年」記念同期会のお知らせ★94 回生は今年度、清陵を卒業してから 20 年目を迎えます。そこで、2010 年 8 月 14 (土) 17:30 より、ホテル鷺の湯 (諏訪市湖岸通 3 - 2 - 14) にて、お世話になった先生方もお招きして学年同期会を行います。現在、各クラス幹事から皆さんの連絡先の確認を行っておりますが、これまで連絡がない方は下記メールアドレスへお問合せ下さい。6 月末までには正式なご案内をお送りする予定です。代表幹事問合せ: kenya@k2.dion.ne.jp (幹事/藤森賢也 TEL 090 - 3432 - 3110)

学年会だより

52・56 回 (双樹会)

千葉春男 (52 回) 記

終戦直後、最後の旧制諏訪中学に入学した 260 人と、3 年後に新制諏訪清陵高校に入学した 92 人が清水ヶ丘に学び、昭和 27 年に卒業した。クラスの成り立ちを 2 本の巨木になぞらえて、同年会は双樹会と命名された。我々はこの名前に強い愛着と誇りをもっている。

双樹会の総会は 5 年前から毎年諏訪でやっている。ゆっくりくつろげる常宿に遠来の仲間を含め 50 人近くが集まる。一昨年から席上仲間の講話を聞くことにした。ちなみに一昨年は茅野實君による「子供たちに恥ずかしくない自然を残そう」、昨年は土橋光廣君による「ブラックスワンと平成の開国」の演題で話をしてもらった。月例会は東京諏訪で続けられ、それぞれ十数人が集まって、声高に談笑して盛り上がる。毎年秋、総会と同じ時期に開催されている双樹会美術展は「すわまるみつ」を会場にして今年 5 年目を迎える。作品集の刊行をしたり、年々幅が広がり、毎年多くの人々に観てもらっている。今年は 5 年目の節目の年にしたいと関係メンバーは張り切っ

ている。

転校したため清陵を卒業していない人も出席、双樹会の集まりを楽しんでくれるのは、嬉しいことである。物故者が 90 名を超えたが、このような集いが続くことを願っている。

〈東京双樹会の動き〉中村繁之 (52 回) 記

双樹会の関東地方在住者の集まりが東京双樹会である。各分野で活躍していた級友も今年で喜寿を迎え、大半はサンデー毎日で、趣味・家庭菜園・地域の活動などを楽しんでいる。「命の電話」の相談員を務める人、諏訪まで毎週ボランティアに出かける人、外人のためのガイドに上高地へ年 20 回も行く人など、立派な心がけの人も多い。

毎月第 3 月曜日、東京駅近くにある小林誠三君経営の扇寿司で懇親会を開き、12 ~ 15 名程度集まっている。夏には恒例のビールパーティーを新宿のハイアットリージェンシー東京で開き、諏訪からを含めて 40 人以上参加している。春には 1,700 本の桜を愛で、その後高尾山麓の「うかい鳥山」で炭火焼肴を肴に談笑する。暮会は千

 **ExxonMobil 代理店**

茶屋石油株式会社

代表取締役 小松 宏光 (77 回)

〒392-0007 諏訪市清水 2-8-9

TEL 0266-52-5044 FAX 0266-52-5173

小松耳鼻咽喉科クリニック

院長 小松 正彦 (77 回)

〒385-0022 佐久市岩村田 1311-9

TEL 0267-66-6300 FAX 0267-66-6160

田中司法書士事務所

司法書士 田中淳喜 (77 回生)

長野県茅野市塚原 2 丁目 2 番 1 号

TEL 0266-72-9371 FAX 0266-72-9372

E-mail atsuyosi@cocoa.plala.or.jp



葉大囲碁部で副主将を務めた小平君所有のマンションで毎月開かれ、今では加齢により参加者が減って、5級下の60回生の応援により、毎回10名程度集まっている。

卒後40周年記念に校歌の巨大額を母校に寄贈

松木敏博(73回)記

我々73回生の清陵卒業は1970年3月。満40年は2010年ですが、この年は諏訪大社御柱祭の開催年。諏訪にいる同年生は多忙となるため、卒後40周年として、2009年に記念事業を行いました。

会の名前は「73(なみ)の会」……並みの人間が集結して大きな力になろうと命名されました。

記念事業に何を贈ろうか、「そう言えば、校歌の歌詞が校内にない。長すぎて、誰も歌碑などの形にしなかったのだろうか? 是非、日本一長い校歌を形にして贈ろう」すぐに結論は出ました。毛筆書きの額を贈ることにし、揮毫を元清陵書道教師の小宮山雪陽氏にお願いし、額は同窓生であるチノモクさんに製作して頂きました。

第一が8番、第二が10番。字体は変えて揮毫され、額は横幅が3.6mと3.9m、縦0.9mの特大版です。短い製作期間であったにもかかわらず、頑張っで形に頂きました。7月4日の清陵祭の一般公開初日に合わせ、除幕を行い、73回生と現役生とで声高らかに歌い上げ、贈ることが出来ました。篠原秀郷校長、北原智啓学友会長からお礼の言葉を頂きました。額は昇降口正面に飾られ、登校時に学生が目にすることが出来ます。伝統の校歌を歌い繋いでほしいと思います。

その後、懇親会を諏訪市のRAKO華乃井ホテルで開き、本山綱規先生と約60人の同期生が集結し、再会を喜び旧交を温めることが出来ました。

40年前の学生気分に戻り、校歌を歌い「金色の民」

を息を切らしながら飛び跳ね(つもり)、楽しい1日を過ごすことができました。

76回生は卒業後37年目の上洛を目指す

関屋孝行(76回)記

昨年は諏訪、東京の各総会・懇親会に多数の皆様のご出席を頂き、幹事学年として喜びに堪えません。ありがとうございました。

東京清陵会76回生は、今後もこの絆を大切にしているために、毎月第二金曜日を「二金会」と題し、集まっています。開催は昨年の12月から本年2月までで3回になりました。過去の会報でもご紹介のあった「清陵勉強会」の告知・普及の意味もあり、事務局を務められている75回生の有賀一温先輩に参加頂いたのをきっかけに、今後は年次にとらわれず、東京近郊で頑張っている清陵OBにも広く参加していただければ、と考えています。回を重ねるごとに、卒業以来36年ぶりの仲間も参加し、懐かしい再会を果たしています。

ところで、私たち76回生は当時「修学旅行」を経験しておりませんでした。昨年の総会・懇親会の二次会で「幻の修学旅行」の復活を望む声が出され、諏訪本部の76回生の集まりで具体的な実施が決まりました。今年の7月、京都を集合場所とし卒業後37年目にして、青春時代に果たせなかった「上洛」を目指します。

これまでの76回生は、諏訪でも各クラスごとの同期会は行われているとは聞いていますが、学年としての結集が見られなかったなか、昨年の幹事年をきっかけに、様々な交流が生まれようとしています。

76回生のホームページも開設、当時の卒業写真や懐かしい写真等も掲載しています。折々の活動報告とともに、この「修学旅行」の様子もアップします。

これからはmixiやtwitterの活用も含め、76回生のみならず清陵OBの輪を広げ、歳を重ねてもひとりひとりの身体の中かで、母校の徽章「梶の葉」の志をさらに育んでゆこうと気持ちを燃やしています。ご指導、ご声援、よろしく願います。

※76回生ホームページ:

<http://www2.plala.or.jp/yellowcard/index.html>

- ・外装リフォーム工事
- ・屋上、ベランダ雨漏り修理

長野県知事許可(般-18 第21851号)

m
MIYASHITA

有限会社 宮下工建

代表取締役社長 宮下 隆幸(77回)
飯田 祐次(92回)

〒392-0016 長野県諏訪市豊田2590-1
TEL0266-58-7040・FAX0266-57-1509

地域に貢献する!

レディーミクストコンクリート製造
日本工業規格認証取得工場

有限会社 マル吉横川セメント

代表取締役 横川 英雄(77回生)
社長

岡谷市長地御所2丁目17番31号

TEL(0266-27-7765)

FAX(0266-27-6379)

E-mail: yokokawa-cemento@ce.wakwak.com

支部活動報告

関西支部

支部長・上島武 (57 回生)

◇第12回支部総会 (平成21年2月22日・ホテル阪神)

松下勲同窓会長、篠原秀郷学校長をお招きし、53名 (家族6名・学生5名) が出席。よし笛奏者の平尾美季氏によるサロンコンサート (ギター伴奏: 平尾卓志氏)。

◇平成21年度部会活動

・ゴルフ部会/21年5月27日 (9名参加)・11月18日 (7名参加) の2回のコンペ開催

・歩こう部会/21年4月11日「万葉の歌を聞きながら古都の奈良を歩く」(19名参加)、10月10日「近江商人とヴォーリズの近江八幡を訪ねる」(12名参加)

・会報部会/第15号 (21年5月7日) 第16号 (9月30日) 第17号 (22年1月15日) を発行

東京支部 (東京清陵会)

支部長・小川勝嗣 (59 回)

平成21年度東京清陵会第43回総会・懇親会は10月16日「アルカディア市ヶ谷」にて、母校篠原秀郷校長先生、松下勲同窓会長をお迎えして開催されました。総出席数は学生18名を含む209名でした。

会報「東京清陵会だより」第20号を9月に発行、アナウンサー・小口絵理子さん (93 回) と漫画家・山田孝太郎氏 (101 回) の対談を軸に密度の濃い紙面が編集されました。総会・懇親会および会報発行に努力された当番幹事学年76回生の皆さんに感謝いたします。

総会案内は3,825通発送いたしましたが、総会出欠の返信を寄せられた方は19.7%にとどまり、4%にあたる150通あまりが宛先不明で戻ってきました。会費納入率の低さとともに、望ましい状況ではありません。会員皆様のご協力を切に願う次第です。

10月20日には東京清陵会第16回ゴルフコンペが常陽カントリークラブにて行われ、23名が参加しました。

長野県高校同窓会東京支部の連合会である、東京同窓連や南信同窓連にも加盟しており、両連合会とも当会副会長・藤森宏一氏に副事務局長の大役をお願いしているほか、役員会、総会への出席、新年会や忘年会にも参加しています。特に南信同窓連・10月18～19日の親睦旅行会では、辰野・清陵同窓会が幹事校を引き受け、75名が参加、下部温泉に一泊して楽しい旅行ができました。

母校第一校歌の作詞者・伊藤長七先生の著書『現代教育観』の第1回読書会が、12月9日に小石川高校、清陵の同窓会有志、伊藤博子さんら20名ほど出席して開かれました。今後継続して読み進めて行く予定です。当日清陵からは林尚孝先生はじめ7名が参加しました。ご興味のある方は参加してください。

東海支部

事務局・小林良章 (75 回)

キャッスルプラザで会員24名参加のもと、第27回東海支部総会を開催。松下同窓会長と母校から石城教頭 (78 回) をお迎えし、初めは当地区大手企業の精神科医としてもご活躍の名古屋大学医学部名誉教授・太田龍朗氏 (61 回) に「ねむりとうつ病」のテーマでご講演いただきました。人生の荒波を乗り越えてきた中高年世代の会員諸兄にとっても、極めて関心の高いお話に皆、大きく傾きながら聴き入っておられました。

総会の後は、校歌・信濃の国のCDが流れる中で、まとまりよい当支部ならではの和気あいの懇親会。途中、松下会長からご紹介のあった戦艦大和艦長の有賀幸作氏 (16 回) の話や母校の中高一貫構想に期待する会員の声、それに本年の「御柱」の話も出て、例年以上の盛り上がり。

締めは濱隆二氏 (73 回) の先導で校歌斉唱。互いの再会と健康を期しての閉会となりました。

北信支部

支部総会を2010年2月19日 (金) 午後6時よりホテル国際21にて47名の参加を得るなか、来賓に松下同窓会長、石城教頭、矢崎代議士をお迎えし盛大に開催いたしました。

まず松下同窓会長から同窓会の最近の活動および清陵高校の状況について、石城教頭先生よりSSH、中高一貫制について、また、矢崎代議士から国政活動についてお話があり、その後、支部役員の改選を行い、茅野支部長、有賀副支部長、瀬木副支部長がご退任、高見澤忠明支部長、岩本弘副支部長、中村博副支部長、井上英幹事が新任されました。

総会後の懇親会のなかで、高見澤新支部長よりいままです以上に活発な支部活動を行っていく旨決意表明がありました。

松本支部

支部長・藤森弘 (60 回)

平成19・20年度は支部総会を開催できなかったのも、今年は何とか年度内にと、3月27日 (土) の4時から松本駅前の東急インを会場に、支部会員14名に学校長・同窓会長のご参加をいただき開催した。

例年の講演に代えて来賓のお二人から、学校の置かれている現状と今後の見通しなど、少し時間をとってお話しいただいた。大学進学や交通手段の利便性向上等による社会情勢の変化が、高校制度に及ぼす影響について考えさせられる内容だった。

新年度から本支部の活動を活発にするために65回生の方々に支部役員に加わってもらうことにし、総会も秋に計画したい。あわせて転勤等の多い支部会員の名簿整備を心がけた。

富士見支部 (岳陵会)

支部長・小林長吉 (61 回)

富士見支部 (岳陵会) 定期総会は、平成22年2月27日 (土) 午後6時より富士見町「大奥」で開催。学校長、同窓会長とも関西支部等に出張のため、山崎学校事務長、今井同窓会副会長を来賓としてお迎えし、同窓会員30人が出席し、盛大におこなわれました。

母校の近況について学校、同窓会よりそれぞれご報告をいただきました。また清陵富士見会 (首都圏在住の富士見町出身者約200名) が発足30年目になることから、佐伯慎会長 (56 回) の代行として幹事の小林初彦氏 (77 回)、佐伯三朗氏 (61 回・会長の実弟) が参加していただきました。幹事から清陵富士見会の30年間の会員の親睦、交流活動報告。佐伯氏 (NP0 法人草炭緑化協会常務理事) から「中国砂漠の緑化活動」について講演をいただきました。

◇その他事業内容

1. 新会員の加入の呼びかけ
2. 本会定期総会の出席のお願い (役員・有志)

支 部 活 動 報 告

茅野支部

事務局長・北原正信 (69回)

茅野支部総会は、平成22年2月6日(土)に茅野駅前のマリオローヤル会館で開催されました。松下勲同窓会長と石城正志教頭のご来席をいただき、総勢65人の同窓生の出席で盛大に開催できました。

茅野支部は、毎年1回総会を開催、今後の同窓会や学校の教育のあり方などを同窓会長、学校長などから聞いた後、同窓生間で親交を深めるとともに、当地域出身の同窓生を講師に話を聞く講演会を開いています。今年は、清陵で研究を進めている中高一貫校の導入について触れながら、同窓会側と学校側のそれぞれの取り組みや近況などが話されました。

任期2年の役員改選があり、新支部長に上條雄(61回)・副支部長に北原正信(69回)・事務局長に樋口尚宏(77回)が選ばれました。

後半の講演会では、講師に諏訪赤十字病院、小口寿夫院長(64回)をお願いして「持続可能(SASUTAINABLE)な病院を求めて一患者中心の医療の実践」の演題でお話しいただきました。

引き続いて全員で記念写真を撮り、懇親会に移りました。乾杯の音頭を松下会長にお願いし祝宴に入り、それぞれ近況を語り合い歓談し宴は盛り上がりしました。

宴が最高潮に達したところで校歌の斉唱です。当支部には、柿沢武氏(故)(58回)が遺されました校歌の第一・第二全文の横断幕があります。壁に掲げた校歌に向かい、若き希望に満ちた時を彷彿しました。

下諏訪支部

支部長・野澤彰治郎(61回)

平成21年度の行事として、8月に納涼会、3月に支部総会を行いました。

納涼会は夏も気軽に集まって講演会と懇親会を行っています。今年も8月7日に29名出席して、下諏訪支部出身の指揮者柳澤寿男さんの講演会と懇親会を行いました。民族対立が続く独立間もない国・コンボで「音楽で民族共栄を図りたい」と苦労話を含めて活動している様子を聞き、改めて柳澤さんの志や行動に感動するとともに、22年の7月に行われる「コンボフィル諏訪公演」の支援と成功を出席者で確認しました。

総会は3月4日に松下同窓会長、篠原学校長をお迎えして、37名が参加して行いました。御柱の会合と重なったりして、例年より若干出席者が少なめでしたが、先輩から若手まで親睦を図りました。同窓会長・学校長の話から母校発展のため

の物心両面の支援をこの際考えるとともに、柳澤寿男さんの「コンボフィル諏訪公演」の支援を改めて確認しチケットの予約を大勢受けました。中締めの後も盛り上がりは収まらず話や歌などが遅くまで続いた懇親会でした。

支部役員の交代が行われ新規体制で新年度スタートすることになりました。

支部長：高木鉄也(63回)、副会長：小松新平(64回)、中村国彦(65回)、事務局長：阿部光男(66回)、幹事：各学年幹事(略)

岡谷支部

支部長・花岡柊好(68回)

平成22年度支部総会は、2月22日、参加者75名にて来賓として篠原校長先生、松下同窓会長を迎え盛会裏に行われた。役員改選について諮られ、支部長及び副支部長は留任となった。総会では「中高一貫」について「同窓会としても研究し、動きを注視していきたい」との発言や同窓生指揮者柳澤寿男氏の「日本・コンボ国交樹立記念特別演奏会」への支援依頼などがあった。

また懇親会では「甲子園出場の期待」や「清陵が地域教育改革の支柱となることを期待する」との声が聞かれた。

約2時間の懇親会は大変な盛り上がりで、世代を超えての交流が図られた。締めくくりには校歌をみなで歌い、再会を約し帰路についた。

支部長＝花岡柊好(68回)、副支部長＝佐原一誠(64回)、小口憲司(69回)、竹村文男(72回)

諏訪支部

支部長・山崎晃(64回)

支部総会は平成21年11月20日(金)午後6時から諏訪シティホテル成田屋にて約110名近くの同窓生の出席により開催されました。物故者黙祷に始まり松下同窓会長、篠原学校長の来賓祝辞、続いて議案審議を無事決議いたしました。

特別講演は77回生の武居美博氏(母校国語科教諭)に「諏訪清陵高校第二校歌講義」と題して解説をしていただきました。明治の大先輩である中島喜久平氏が作詞した内容は学生時代詳しくは知らず、各種コンパ、スポーツ大会等でよく歌いました。今初めてその意味を知り、志を高くと歌い上げた精神を教えて頂きました。

その後懇親会を和やかにいり校歌斉唱をして散会しました。

なお三役会と役員会を3回実施し、総会に向けて準備をしました。

縄田政幸法律事務所

弁護士 縄田 政幸(77回生)

〒392-0004

長野県諏訪市諏訪2丁目15番2号

TEL 0266-58-6493 FAX 0266-58-9914



ペットボトルのキャップを集め、
発展途上国の子供たちにワクチンを送ろう
ボランティア夢の会エコキャップ運動事務局
<http://www.geocities.jp/voyume>

1級建築士事務所

平出建築環境設計工房

平出 美彦(77回生)

〒391-0001 茅野市ちの1920-1

TEL 0266-73-7644 FAX 0266-73-7647



訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成22年4月30日までにご連絡をいただいた方々)

28 花岡啓一郎 2010/2/16	42 増井 邦夫 2008/4/1	49 小口 涛夫 2009/4/5	56 堀田 俊夫 2009/12/4
31 北澤弥吉郎 2006/6/25	42 両角 節 不明	49 和田 卓郎 2009/10/23	57 松沢 壮三 2007
31 水野 幹夫 2009/3/11	43 牛山 直樹 2008/11/24	49 植松 芳彦 2010/4/11	57 牛山 欽司 2009/6/4
32 五味 一 2009/9/27	43 栗林 英雄 2008/12/10	50 有賀 裕 2009/6/4	58 瀬戸 徳一 2007/12/31
32 中村 友保 2006/3/23	43 五味 徳朗 2008/1/10	50 北澤 諭 2009/10/8	58 高嶋 修一 2009/4/6
33 河西 正教 2007/10/9	44 今井 康夫 2009/10/12	50 駒井 進 2009/2/28	59 古村 文左 2007/9/4
33 竹松 宏章 2007/9/	44 島立 利貞 2009/4/24	50 小松 節 2008/12/30	59 林 忠利 2009/4/15
34 林 正徳 2010/3/19	44 高木 邦雄 2010/1/11	50 林 謙二 2009/6/13	59 堀内 昌人 2007/9/25
34 平出 正躬 2009/6/26	44 中村 米二 2010/1/1	50 平林 昭七 2009/11/4	59 三輪 重治 2009/2/24
35 金子 定正 2010/2/19	45 市原 伸能 2008/8/16	50 宮阪 誠文 2007/4/4	60 柿沢 敏弘 2010/1/10
35 竹村 元雄 2009/7/31	45 久保 光章 2009/8/11	50 宮坂 宗平 2006/11/23	60 篠原 俊雄 2010/3/30
36 小林七三郎 2007/12/2	45 佐野 怜 2008/3/11	50 三輪 尚文 2010/1/8	60 長田 敦夫 2009/6/18
36 藤森 玉久 2007/6/12	45 浜 豊茂 2008/12/22	51 伊藤 雄一 2009/11/26	60 矢島倭洲男 2010/3/
36 矢崎 碩一 2009/10/29	45 小倉 裕 2008/4/18	51 小池 春次 2009/6/23	61 植松 良次 2008/9/13
36 柳澤 忠義 2010/2/11	45 平林 良喜 2009/10/22	51 百瀬 洋三 2008/1/27	62 青木 孝弘 2008/3/7
36 大岡 章吾 2007/8/8	45 藤岡 守 2007/3/18	52 下村 幹夫 2010/1/25	63 鎌倉 利夫 2009/2/11
37 牛山 励 2007/1/1	46 伊東 光彦 2009/1/1	52 須田 昌男 2007/11/24	66 小口 晃 2010/1/26
38 小口 任三 2009/2/9	46 笠原 昭男 2009/10/16	52 田村 隆幸 2010/2/11	67 今井 文明 2009/9/26
38 三石 補造 2009/2/12	46 金子 光良 2009/12/4	52 両角 実 2009/5/26	68 北村 充彦 2010/3/21
39 小林 章二 2009/2/16	46 栗林 孝次 2008/3/29	52 柳平 禎 2009/8/25	69 土屋 基 2009/12/5
39 小泉 憲市 2010/4/13	46 幅 泰男 2008/2/20	55 阿部 一正 2007/6/5	72 永田 修平 2010/3/18
40 中村嘉右衛門 2007/5/23	46 濱 敏夫 2008/2/4	55 小坂 忠泰 2009/11/29	73 小口賢治郎 2008/11/25
41 鮎澤 渡 2009/5/28	46 古屋 一男 2008/12/31	55 小池 貞男 2007/12/31	73 小平 治郎 2007/
41 内藤 芳博 2008/10/14	47 井上 哲男 2009/10/2	55 小林 正樹 2009/4/28	73 田中 和彦 2007/10/20
41 宮坂 逸郎 2009/4/3	47 今井 伝八 2009/9/13	56 秋月 典一 2008/12/9	73 山口 和夫 2010/3/9
41 柳澤 武康 2008/10/19	47 鷹本 敬夫 2009/8/19	56 小澤 邦重 2009/5/22	73 脇坂 友雅
42 河西 美夫 2008/3/29	48 平島 昭 2010/1/8	56 川名 清正 2009/3/	76 菊池 隆男 2009/11/6
42 河西 幸男 2009/4/19	49 福島 太郎 2008/10/15	56 小林 謙二 2007/11/26	
42 土橋 克實 2009/10/27	49 松原 稔 2009/8/9	56 五味 定彦 2005/1/16	
旧職 長澤嘉久雄 2009/9/15	49 笠原 巖 2009/1/21	56 仁科 和男 2006/4/25	

事務局だより

◆今年2月5日、諏訪地域の中等教育が抱える課題を協議する諏訪地区中等教育懇談会(中学・高校長、PTA連合会、市町村教委等で構成)が開催されました。高校再編・改革問題を検討してきた中等教育懇談会内の研究委員会が、魅力ある高校づくりの一つとして、公立中高一貫校について「諏訪地区への設置を期待する」との結論を発表、この懇談会で了承されました。県教委が「中南信に一校を設ける」との方針を既に示していることでもあり、母校の対応に添って同窓会としても母校のより良い発展を支援したいと思います。

◆平成21年度中の「清陵OB文庫」へ寄贈頂いた図書等は下記の通り。有難うございました。なお、上梓されました節は、同窓会OB文庫へご恵贈頂ければ幸いです。

・山田侑平(60回)著『ザ・コールドスト・ウインター 朝鮮戦争』(上・下)
・山田和夫氏(塩尻市)『記念館だより』第49号、50号(松本・旧制高校記念館友の会)

◆平成6年に同窓生からなる諏訪海軍史刊行会が、明治から第2次世界大戦終結に至るまでの海軍三校(兵学校・機関学校・経理学校)出身同窓生、また、この三校に深く関わった同郷・同窓先輩の足跡やその功績を顕彰し鎮魂の祈りを捧げるべく、追悼集『海こそなければ』一諏訪海軍の軌跡一を発売した。この刊行以後も、海軍に関わった同窓生の集い「諏訪水交会」の方々は折に触れて追悼・慰霊の法要を続けてこられたとのこと。しかし、会員各位も高齢となり、昨年4月に最後の慰霊法要を執り行いました。この会で会費の残額を母校のためにと元同窓会長・小菅重男氏が代表されてご来校され、クラブ活動同窓会後援会へご寄贈頂きました。「諏訪水交会」会員各位のご健勝を祈念しつつ茲に感謝申し上げます。

◆信濃教育博物館(信濃教育会・長野市)主催の企画展「花ひらく信州教育」展が昨年10月に開催されました。三澤先生の遺品にも出展依頼があり、三澤文庫に所蔵されている天体望遠鏡と黒点スケッチ、『図説 天文講座・太陽』とその原稿、クリノメーター、水準器、岩石ハンマー等15点を貸し出しました。(財)諏訪清陵会が新制度の公益法人に移行するにあたり、これらの蔵書をはじめとする物品の整備が三澤文庫にとって今後の大仕事になります。

◆地藏寺の本堂などの改築が終了し、さる4月24日に盛大な落慶法要が営まれました。このような法要もあり、また今年は御柱祭やその他により例年4月の桜の候に執り行ってきた「道志社先輩ならびに物故会員慰霊法要」は延期に。御柱祭といえば過去2回の「里曳き」では同

窓会の「お宿」を茅野・下諏訪に設け「旅人の手つだひするや御柱」(雀圃)の風情を醸し出し、同窓生などの交流の場としてきましたが今年は諸般の事情により中止に。

◆創立百十周年記念【会員名簿】発刊後の住所変更も多く、折角この『同窓会報』を発送しても数多くが事務局へ戻されてくるのが実情。住所等の変更の節は事務局へ是非ご連絡を。また、差し支えなければ各学年や各クラスで作成された最新の名簿等をご提供頂ければ幸いです。

◆平成22年度学校同窓会係・事務局

・学校同窓会係:大久保純男(主任・80回) 日達一二三(75回) 吉田和正(79回) 奥村達朗(86回) 小宮山健司(87回) 濱勝彦(87回) 井口智長(88回) 藤森秀則(88回) 山崎典英(学校事務長)

・事務局:武居浩明(56回・月曜日と金曜日に出勤)

小口修平(79回・必要に応じ出勤)

電話 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348

E-Mail dousoukai@suwaseiryjo.jp

ホームページ <http://www.suwaseiryjo.jp>

編集後記

会報の発行にあたり、母校に触れる機会ができたことは、大変幸せなことであったと感じています。

おんぼろ校舍も鉄筋になり、「金色の民」も若干ペースが速くなった。私たちの世代が学生だった頃に比べ、大分様子が変わったと、最近何となく寂しさを感じていたのだが…。

会報作成の過程で、現役学生の様子を少しだけ知ることができ、同期の旧友と酒を酌み交わし、へべれけの寸前くらいに酔っ払って「あの頃の清陵」を感じることもできた。

そんな中で、「過去から現在に至るまで、同窓生～現役学生には、共有している何かがある」と確信できました。錯覚かもしれないが、今はほっとしています。

この会報を読んで、1万7千の同窓生に、同窓生たる誇りと幸せを感じていただけたらと思います。

会報発行にあたり、学校、同窓会関係者、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

77回同窓会実行委員会【学年幹事】長田光正【会計】山崎義男【会報部会】佐藤みきお、阿部泰和、石本保雄、小口武男、武居美博、横川英雄、小口修平(79回)【クラス幹事】柘植明秀、樋口尚宏、林俊朗、清水誠、平出美彦、宮下和弘【委員】片倉和人、小松宏光、篠原邦秀、中島秀明、原幸宏、牧内敬秀、八幡昭憲